










Scarlett 2i2 第4世代
ユーザーガイド

アーティストのための2 In/2 Outインターフェース
Focusrite®

目次

| | |
|--|----|
| 概要 | 4 |
| はじめに | 4 |
| 内容物 | 4 |
| システム要件 | 4 |
| ソフトウェアシステム要件 | 4 |
| 使用を開始する | 5 |
| Scarlett の電源を投入 | 5 |
| イージースタート | 5 |
| Windows | 5 |
| Mac | 6 |
| すべてのユーザー | 6 |
| Focusrite Control 2 について | 7 |
| Focusrite Control 2 のインストール | 7 |
| 手動による製品登録 | 8 |
| イージースタートを無効にする | 8 |
| 各部の名称と特徴 | 9 |
| フロントパネルの各機能 | 11 |
| プリアンプの入力ゲインを設定する | 11 |
| Select ボタン | 13 |
| 48V ボタン (ファンタム電源) | 15 |
| Inst (インストゥルメント) ボタンおよびライン入力 | 15 |
| オートゲイン | 16 |
| マルチチャンネルオートゲイン | 17 |
| クリップセーフボタン | 18 |
| Air モード | 18 |
| Output ノブおよびレベルメーター | 19 |
| ダイレクトモニターボタン | 19 |
| ヘッドフォン出力 | 21 |
| リアパネルの詳細 | 22 |
| USB 接続 | 22 |
| スピーカー出力 | 22 |
| マイク入力 | 22 |
| DAW (録音ソフトウェア) のセットアップ | 23 |
|  Logic および  GarageBand | 24 |
|  Ableton Live | 25 |
|  Pro Tools | 28 |
|  Reaper | 29 |
|  FL Studio | 31 |
|  Cubase | 32 |
| 使用例 | 34 |
| 入出力の接続 | 34 |
| ラインレベル機器を接続する | 35 |

| | |
|-----------------------------------|----|
| ループバック | 35 |
| スタンダアローンモード | 36 |
| Focusrite Control 2 | 37 |
| Focusrite Control 2 の設定 | 37 |
| サンプルレート (kHz) | 37 |
| 分析 | 37 |
| アップデート | 38 |
| Focusrite Control 2 のアップデート | 38 |
| Scarlett のアップデート | 39 |
| 仕様 | 40 |
| 性能仕様 | 40 |
| 物理的特性と電気的特性 | 41 |
| チャンネルの順序 | 41 |
| 通知 | 42 |
| トラブルシューティング | 42 |
| 著作権および法定通知 | 42 |
| クレジット | 43 |

概要

はじめに

Scarlett 2i2 第 4 世代へようこそ。

Scarlett 2i2 は、絶えず創作に挑むアーティストのために作られた製品です。最新世代の Scarlett で、どこでもお好きな場所でスタジオ品質のサウンドでのレコーディングをお楽しみください。

- +69dB の **ゲイン** を各入力に備え、あらゆるマイクやギターのパフォーマンスを最大限に引き出します。
- レベル設定はわずか数秒で完了でき、**オートゲイン**や**クリップセーフ**機能を使えば、常に演奏を最高の音質で録音できます。
- 再設計された Air モード (Presence および Harmonic Drive)。
- Focusrite Control 2 ソフトウェアからプリアンプをリモートコントロール。
- イージースタートのほか、音楽制作に必要なスタジオソフトウェアがすべて付属し、すぐにレコーディングが開始できます。

内容物

Scarlett 2i2 には以下の同梱物が含まれます。

- Scarlett 2i2
- USB-C to A cable
- Getting Started (梱包箱蓋内部に記載)
- 安全に関する情報ガイド

システム要件

お使いのコンピュータのオペレーティングシステム (OS) が Scarlett 2i2 に対応しているかを確認するには、ヘルプセンターの互換リストをご参照ください。

[Focusrite ヘルプセンター：互換性](#)

互換性リストは、OS の新バージョンのリリースに応じて随時更新され、ヘルプセンターにてご確認いただけます。

support.focusrite.com

ソフトウェアシステム要件

Focusrite Control 2 がお使いのコンピュータのオペレーティングシステム (OS) に対応しているかを確認するには、ヘルプセンターの互換リストをご参照ください。

[Focusrite ヘルプセンター：互換性](#)

互換性リストは、Focusrite Control 2 または OS の新バージョンのリリースに応じて随時更新され、ヘルプセンターにてご確認いただけます。

support.focusrite.com

使用を開始する


Scarlett の電源を投入

Scarlett 2i2 の電源を投入するには、コンピュータに接続した USB ケーブルをリアパネルの USB ポートに接続します。


数秒すると Scarlett が起動し、 USB アイコンが緑に点灯します。



重要

本体が起動したにも関わらずコンピュータに認識されない場合は、 USB アイコンが白く点灯します。その場合は以下をご確認ください。

- Focusrite Control 2 がコンピュータにインストールされているか。
- USB ケーブルがリアパネルの USB ポートに適切に接続されているか。
- コンピュータの別の USB ポートを使用する。
- 別の USB ケーブルを使用する。

 USB アイコンが赤く点滅する場合は、Scarlett に十分な電源が供給されていないことを意味します。

コンピュータに接続せずに Scarlett 2i2 の電源を投入する方法は、[スタンドアローンモード \[36\]](#)をご参照ください。

イージースタート

イージースタートは、Scarlett を手順に沿ってセットアップし、Scarlett の使用用途に応じてパーソナライズされたチュートリアルリストを作成できるオンラインツールです。また、Scarlett の製品登録やバンドルソフトウェアのダウンロードなども行えます。

Windows または Mac に Scarlett を接続すると、本体が USB ドライブのような大容量記憶装置 (MSD) としてマウントされます。ドライブを開き、「Scarlett - Getting Started.html」をダブルクリックします。「Get Started」をクリックすると、イージースタートがウェブブラウザで開かれます。

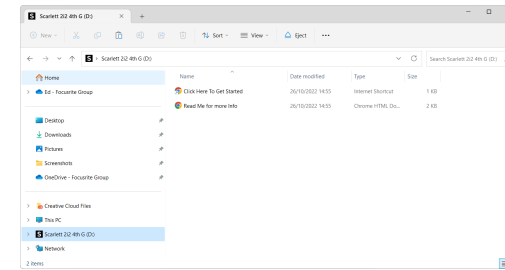
画面の指示に従い必要なソフトウェアをインストールし、Scarlett を使用する準備を行います。

Windows

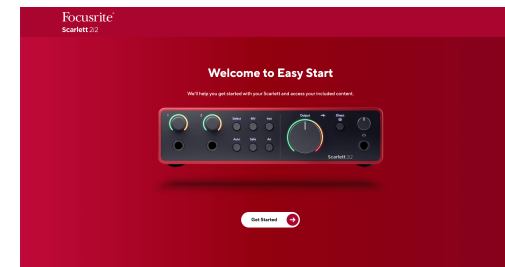
Scarlett 2i2 をコンピュータに接続すると、エクスプローラーに「Scarlett 2i2 4th Gen」というドライブが表示されます。イージースタートはこのドライブから起動できます。

イージースタートを起動するには：

1. エクスプローラーを開きます。
2. Scarlett 2i2 4th Gen (D:)を開きます。ドライブレターは、お使いの環境によって異なる場合があります。



3. Click Here to Get Started をダブルクリックします。Focusrite ウェブサイトが開くので、製品登録を行うことをお勧めします。



4. Get Started をクリックすると、Scarlett の使い方に応じたセットアップ手順が表示されます。

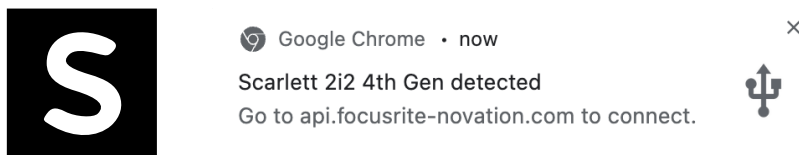
セットアップの際に、Focusrite Control 2 がインストールされます。インストールされた Focusrite Control 2 を起動し、「Update Scarlett 2i2」をクリックします。Focusrite Control 2 のアップデート中は、Scarlett をコンピュータから切断しないでください。Focusrite Control 2 のアップデートが完了すると、Scarlett はストレージデバイスとしてコンピュータに認識されなくなります。

オペレーティングシステムにて、Scarlett をコンピュータの規定のオーディオ入出力デバイスとして設定する必要があります。

確認方法：Windows タスクバーのスピーカーアイコンを右クリックし、再生デバイスで Scarlett が選択されているかを確認します。

Mac

Scarlett 2i2 をコンピュータに接続すると、デスクトップに Scarlett アイコンが表示されます。Chrome をお使いの場合は、以下のポップアップが表示されます。

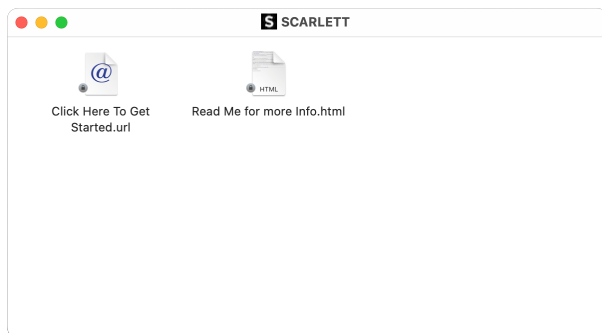


Scarlett イージースタートアイコン: ダブルクリックしてイージースタートを開始 (手順 1)

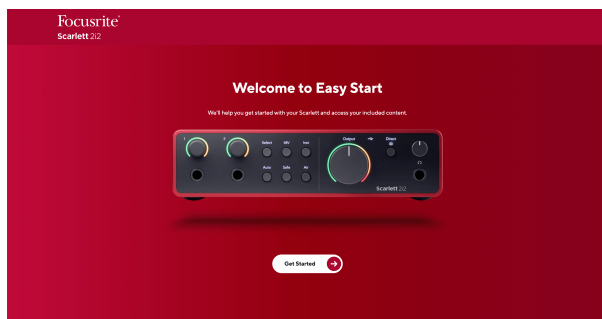
Chrome のポップアップ: クリックしてイージースタートを開始 (手順 2)

イージースタートを起動するには :

1. アイコンをダブルクリックすると、以下の Finder ウィンドウが開きます。



2. Click Here to Get Started をダブルクリックします。Focusrite ウェブサイトが開くので、製品登録を行うことをお勧めします。



3. Get Started をクリックすると、Scarlett の使い方に応じたセットアップ手順が表示されます。

セットアップの際に、Focusrite Control 2 がインストールされます。インストールされた Focusrite Control 2 を起動し、「Update Scarlett 2i2」をクリックします。Focusrite Control 2 のアップデート中は、Scarlett をコンピュータから切断しないでください。Focusrite Control 2 のアップデートが完了すると、Scarlett はストレージデバイスとしてコンピュータに認識されなくなります。

オペレーティングシステムにて、Scarlett をコンピュータの規定のオーディオ入出力デバイスとして設定する必要があります。

確認方法 : システム環境設定 > サウンドを開き、再生デバイスで Scarlett 2i2 が選択されていることを確認します。

すべてのユーザー

ドライブ内にある 2 つ目のファイル「More Info and FAQs」を開くと、セットアップで問題が生じた際に役立つ様々な情報にアクセスできます。

製品登録を行うと、以下のリソースにアクセス可能になります。

- Focusrite Control 2 (Mac/Windows 版) - 下記の解説をご参照ください。
- 各国語版ユーザーガイド - downloads.focusrite.com からダウンロード可能
- 付属のバンドルソフトウェアおよびライセンスコードへのリンク (Focusrite アカウント内) Scarlett 2i2 付属のバンドルソフトウェアに関する詳細は、Focusrite ウェブサイト (focusrite.com/scarlett) をご参照ください。

Focusrite Control 2 について

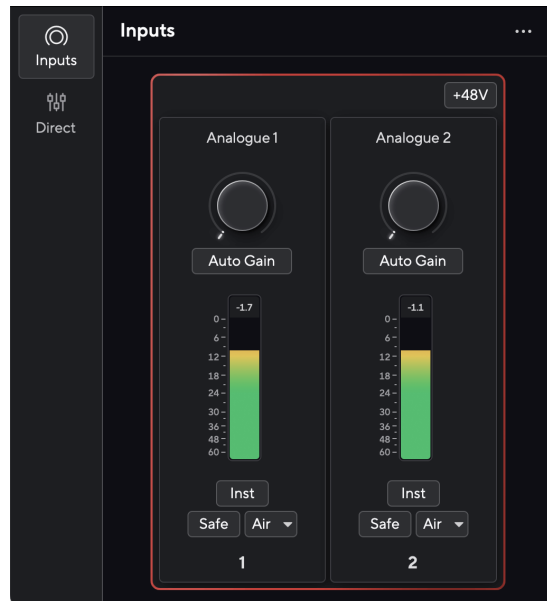
Focusrite Control 2 は、Scarlett インターフェースをコントロールするためのソフトウェアです。



Focusrite Control 2 アイコン

Focusrite は、お客様が Scarlett を最大限に活用いただけるよう、新機能の追加や改善を施す Scarlett 2i2 のアップデートを臨時提供しています。Scarlett 2i2 のファームウェアは、Focusrite Control 2 からアップデート可能です。

Focusrite Control 2 を使うと、お使いのモデルに応じて Scarlett の様々な機能をコンピュータからコントロールできます。



注記

Focusrite Control 2 は主要な読み上げソフトウェアに対応しており、Scarlett の各機能のコントロールが可能です。

Focusrite Control 2 のインストール

あなたはウィンドウズと Mac にインストール Focusrite Control 2 することができます。ダウンロードしてインストール Focusrite Control 2 するには:

1. フォーカスライトのダウンロードウェブサイトに移動します。
focusrite.com/downloads
2. ダウンロード Web サイトであなた Scarlett を見つけてください。
3. お使いのオペレーティングシステム(Windows または Mac)用にダウンロード Focusrite Control 2 してください。
4. コンピューターのダウンロードフォルダーを開き、Focusrite Control 2 インストーラーをダブルクリックします。
5. 画面の指示に従ってインストール Focusrite Control 2 します。Windows 用にインストール Focusrite Control 2 する場合は、コンピュータが再起動します。
6. まだ接続していない場合は、インターフェイスを USB ケーブルでコンピュータに接続します Scarlett。
7. Focusrite Control 2 を起動すると、Scarlett が自動的に認識されます。



注記

Windows で Focusrite Control 2 をインストールすると、ドライバーも同時にインストールされます。Focusrite Control 2 は、製品登録を行っていない場合でも、downloads.focusrite.com からダウンロード可能です。macOS で本製品を使用する場合はドライバーは不要で、Focusrite Control 2 のインストールのみ必要となります。

手動による製品登録

Scarlett の製品登録を後日行う場合は、customer.focusrite.com/register から登録可能です。

その場合はシリアル番号を手動で入力する必要があります。シリアル番号はインターフェースの底面（下側の白い数字）、または梱包箱のバーコードラベルに記載されています。



使用を開始する際は、Focusrite Control 2 のダウンロードをお勧めします。Focusrite Control 2 を起動すると、イージースタートモードが無効になり、Scarlett 2i2 のすべての機能が有効になります。

イージースタートモードでは、サンプルレートが最大 48kHz に制限されています。Focusrite Control 2 をインストールすることで、最大 192kHz の性能を最大限に活用できます。

Focusrite Control 2 は、downloads.focusrite.com からいつでもダウンロード可能です。

イージースタートを無効にする

イージースタートによるセットアップ完了後、Focusrite Control 2 をインストールして起動すると、Scarlett のイージースタートモードは自動的に無効になります。

Scarlett 2i2 のイージースタートモードが無効にならない、または Focusrite Control 2 をインストールせずにイージースタートモードを無効したい場合は、以下の手順に従ってください。






1. Scarlett 2i2 の電源をオフにします。
2. **48V** ボタンを押し続けます。
3. **48V** ボタンを押したまま Scarlett 2i2 の電源をオンにします。
4. フロントパネルが点灯したことを確認し、**48V** ボタンを離します。
5. Scarlett 2i2 を再起動します（電源をオフにしたあと再びオンする）。

以上でイージースタートモードは無効になります。

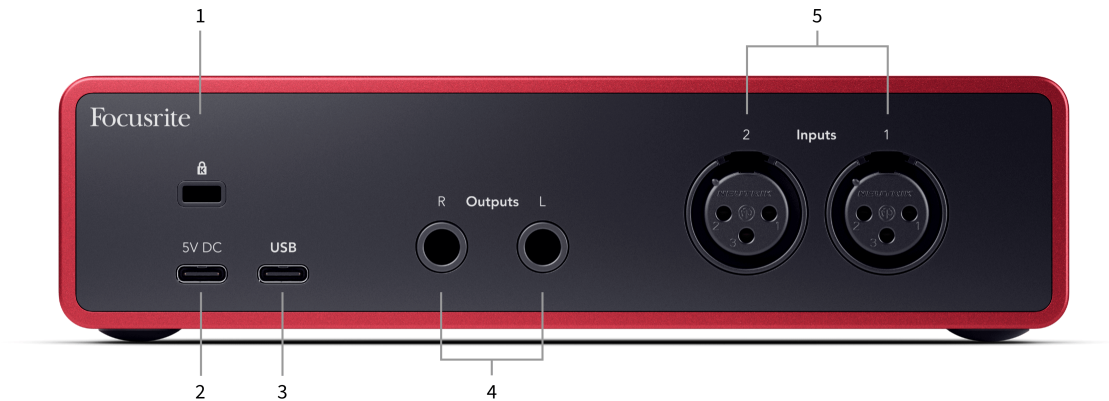
各部の名称と特徴

フロントパネル



1. 入力 1 ゲインコントロールおよびゲイン Halo - ゲインコントロールは、ジャック入力 1 または XLR マイク入力 1 の入力レベルを設定します。ゲイン Halo は、入力レベルとプリアンプのゲインレベルを表示します。
2. 入力 1 Neutrik® 6.35mm (1/4 インチ) ジャックソケット - アンバランスモノラル (TS) ジャックおよびバランスモノラル (TRS) ジャックのいずれにも対応し、ラインレベルまたはインストゥルメントレベル信号を入力できます。この入力ソケットにケーブルを接続すると、リアパネルの XLR 入力 1 は無効になります。
3. 入力 2 ゲインコントロールおよびゲイン Halo - ゲインコントロールは、ジャック入力 2 または XLR マイク入力 2 の入力レベルを設定します。ゲイン Halo は、入力レベルとプリアンプのゲインレベルを表示します。
4. 入力 2 Neutrik® 6.35mm (1/4 インチ) ジャックソケット - アンバランスモノラル (TS) ジャックおよびバランスモノラル (TRS) ジャックのいずれにも対応し、ラインレベルまたはインストゥルメントレベル信号を入力できます。この入力ソケットにケーブルを接続すると、リアパネルの XLR 入力 2 は無効になります。
5. **Select** ボタン - 選択するプリアンプを切り替えることができます。他のボタンで選択中のプリアンプの設定を変更できます。選択中の入力チャンネルの番号は緑色に点灯します。
6. **48V** ボタン - コンデンサーマイクに電源を供給するための XLR マイク入力の 48V ファンタム電源を有効にします。
7. **Inst** ボタン - 選択中の 6.35mm (1/4 インチ) 入力ジャックの信号レベルを、ラインまたはインストゥルメントレベルに切り替えます。
8. **Auto** ボタン - オートゲイン機能を開始します (オートゲインのページ参照)。
9. **Safe** ボタン - 選択中の入力でクリップセーフ機能を有効にします (クリップセーフのページ参照)。
10. **Air** ボタン - AIR モードを有効にします (AIR のページ参照)。
11. メインスピーカー出力レベルコントロール **Output** および出力レベルメーター - Output ノブで Outputs R および Outputs L の出力レベルを調整します。メーターは出力レベルを表示します。
12.  USB LED - インターフェースがコンピュータに認識されると、緑色に点灯します。接続されているにもかかわらず認識されない場合は、白色に点灯します。
13. **Direct**  モニターボタン - オフ (白)、オンモノラル (**Direct** が緑色に点灯)、オンステレオ ( が緑色に点灯) の 3 つの設定を切り替えます。
14.  ヘッドフォンレベルコントロール - ヘッドフォン出力レベルを調整します。
15.  ヘッドフォン出力ソケット - TRS 6.35mm (1/4 インチ) ジャックコネクタでヘッドフォンを接続します。

リアパネル



1. **🔒**- ケンジントンロック。Scarlett を固定し、盗難から守ります。
2. **5V DC** - Scarlett 2i2 に電源を供給するためのオプションの USB-C コネクタ。コンピュータが 1.5A の USB-C 電源を Scarlett 2i2 に供給できない場合に使用します。
3. **USB** - Scarlett とコンピュータを接続するための USB-C コネクタ。
ほとんどのコンピュータでは、データ伝送と電源供給をこの USB ポートのみで行えます。
4. スピーカー出力 **Outputs R** および **L** - Scarlett をスピーカーまたはアンプに接続するための 6.35mm (1/4 インチ) ジャック (TS または TRS) ソケット。出力先の機器がバランス接続に対応している場合は、6.35mm (1/4 インチ) TRS ジャックケーブルの使用をお勧めします。
5. **Inputs 2** および **1** - マイク接続用 3 ピン Neutrik® XLR コネクタ。フロントパネルのラインレベル入力ソケットにケーブルを接続すると、対応する XLR 入力は無効になります。



ヒント

Scarlett 2i2 は、リアパネルにマイク用 XLR 入力を、フロントパネルにインストールメントおよびラインレベル機器用 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力を備えます。

フロントパネルの入力ジャックにケーブルを接続すると、リアパネルの XLR マイク入力が無効になります。XLR 入力にマイクを接続しても音が出ない場合は、フロントパネルの入力ジャックにケーブルが接続されていないことをご確認ください。

フロントパネルの各機能

本章では、Scarlett 2i2 のフロントパネルのすべての機能を紹介し、Focusrite Control 2 での操作方法についても解説します。

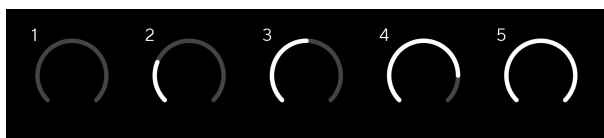
プリアンプの入カゲインを設定する

プリアンプの入カゲインを使うと、コンピュータおよび録音ソフトウェアへ送信する信号レベルを調整できます。

最高の音質での録音を行うには、プリアンプの入カゲインを適切に設定することが重要になります。プリアンプの入カゲインが低すぎると入力信号が小さくなります。この状態で録音した信号のレベルを上げると、ノイズが大きく聞こえる場合があります。反対にプリアンプの入カゲインが高すぎると、入力信号がクリップし耳障りな歪みが録音されてしまう可能性があります。

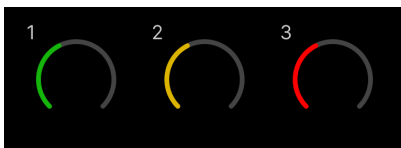
入カゲインを上げるには、ゲインノブを時計方向に回します。ゲインノブを回すとゲイン Halo が時計回りに徐々に点灯し、ゲインレベルを表示します。ゲインノブの位置と入カゲイン値の関係は、以下の図の通りです。

1. 入カゲインなし
2. 入カゲイン 25%
3. 入カゲイン 50%
4. 入カゲイン 75%
5. 入カゲイン 100%



プリアンプに信号を入力しながら入カゲインを調整すると、ゲイン Halo はコンピュータへの送信レベルに応じて緑、橙、赤に点灯します。ゲインノブの位置とゲイン値の関係は上記図と同様となります。ゲイン調整後にノブから手を離すと、通常の入カメーター表示に復帰します（入カメーターのページ参照）。

1. ゲイン 40%、適切な信号レベル
2. ゲイン 40%、クリップ寸前の信号レベル
3. ゲイン 40%、信号がクリップ



1. 緑色の点灯は、適切な信号レベルを示します。
2. 橙色の点灯は、信号がクリップ間近であり、これ以上レベルが上がると入力クリップする恐れがあることを示します。

3. 赤色の点灯は、信号がクリップしており、ゲインを下げるべきであることを示します。

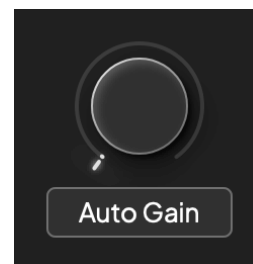
ソフトウェアでのゲインコントロール

プリアンプの入カゲインは、Focusrite Control 2 から調整することも可能です。

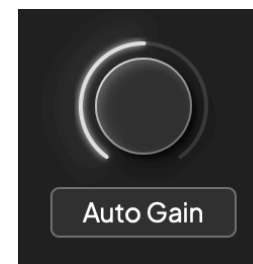
Focusrite Control 2 でプリアンプの入カゲインを調整するには：

1. ゲインを調整したいチャンネルのバーチャルノブをクリックするか、タブキーでプリアンプのゲインコントロールを選択します。
2. ノブをクリックした状態でマウスを上下に動かすか、矢印キーでゲインを調整します（±1dB 単位）。

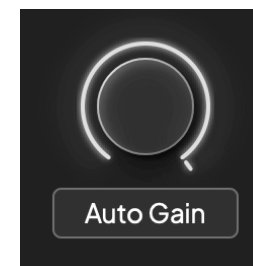
下図は、プリアンプの入カゲインが最小、中間、最大のときのノブの位置を示しています。



入カゲインなし



ゲイン 50%

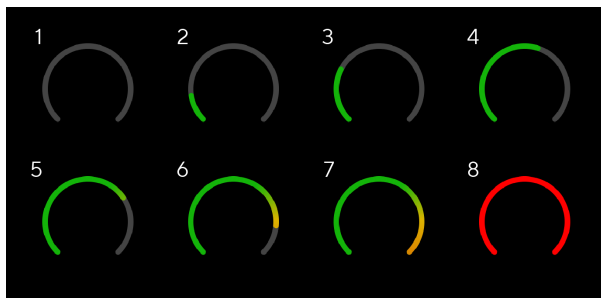


ゲイン 100%

入力メータリング

入力ゲインコントロールを調整していないとき、ゲイン Halo は入力メーターとして機能します。入力信号レベルが大きくなると（入力ゲイン設定が高い場合など）、ゲイン Halo は緑色から橙色に変化します。入力信号レベルがクリップすると、ゲイン Halo 全体が赤く点滅します。

下図は、各入力信号レベルにおけるメーター表示を示しています。



1. 入力信号なし
2. -42 dBFS
3. -36 dBFS
4. -24 dBFS
5. -18 dBFS
6. -12 dBFS
7. -6 dBFS
8. 0 dBFS、クリッピング - 信号の歪みやクリップを避けるため、入力ゲインを下げる必要があります。



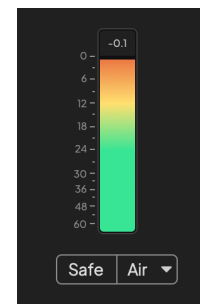
ヒント

入力信号がクリップするとゲイン Halo 全体が赤く点灯します。これによりどの角度からでもフロントパネルでクリップの状態を確認できます。

ソフトウェアメータリング

入力信号レベルは、Scarlett 2i2 のフロントパネルと同様に Focusrite Control 2 でも確認でき、プリアンプゲインを適切に設定できます。

信号レベルが大きくなると、Focusrite Control 2 のメーターの色が緑色から橙色（クリップ寸前）に変化します。

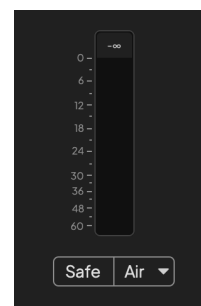


メーター上部のインジケータは、ピークレベル（dBFS）を表示します。ピークレベルとは、入力信号のモニタリングを開始してからの最大レベルを指します。ピークレベルメーターをマウスでクリックすると、ピーク値をリセットすることができます。

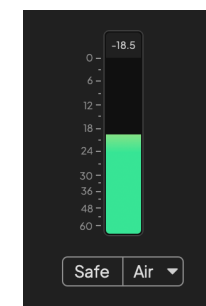


ヒント

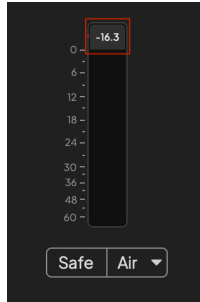
録音の際は、ピークレベルが-12dBFS になるように心がけてください。これにより、すべてのトラックの録音を終えた際に十分なヘッドルームを確保できます。



入力信号を待機中

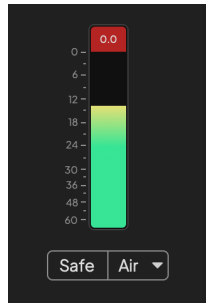


入力信号が-18dB に達した様子

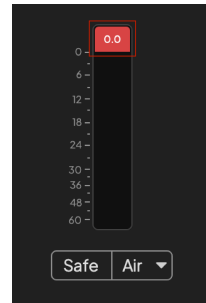


クリックしてピークレベルメーターをリセット

入力信号やゲイン設定が大きすぎてプリアンプがオーバーロードすると、ピークレベルメーターが赤色に点灯します。ピークレベルメーターをマウスでクリックすると、ピーク値をリセットすることができます。



入力信号のクリップを検出



クリップ検出後にピークレベルメーターをクリックしてリセット

Select ボタン

Scarlett 2i2 のフロントパネルのコントロールの多くは、複数のプリアンプを設定するために使用します。**Select** ボタンを押すと、設定できるプリアンプが切り替わります。

プリアンプはいずれかが常に選択された状態となります。**Select** を押すことで、選択中のプリアンプを切り替えることができます。選択中のプリアンプを切り替えると、新たに選択されたプリアンプの番号が緑色に点灯し、プリアンプ設定の点灯表示が新たなプリアンプの状態に応じて変化します。

Scarlett 2i2 の電源をオンにすると、前回電源をオフにした際に選択されていたプリアンプが選択されます。

プリアンプをリンクする

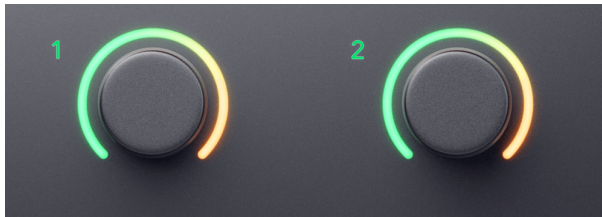
プリアンプをリンクすると、1つのコントロールで2つのプリアンプを同時に制御できます。2つのプリアンプに対して同じゲイン値を設定したり、その他の機能を同時に有効にすることができます。そのため、マイクペア、ステレオシンセサイザー、キーボードなど、ステレオ録音の際に便利な機能です。

プリアンプをリンクするには：

- **Select** ボタンを1秒間押し続けます。

プリアンプがリンクされると：

- 両方のプリアンプ番号が緑色に点灯し、ゲイン Halo がプリアンプレベルを一時的に表示します。



- 新たにリンクされたプリアンプのゲインレベルは、最小値に設定されます。
- プリアンプの設定は、リンク設定時に選択されていたプリアンプから引き継がれます (例えばプリアンプ1が選択されていた場合、プリアンプ1の **Air**、**Safe**、**Inst** 設定がプリアンプ2に反映されます)。
- プリアンプの設定を変更すると、両方のプリアンプに変更が反映されます。
- いずれかのゲインコントロールを調整すると、両方のプリアンプのゲインレベルが変更され、各ゲイン Halo に表示されます。
- 48V は両方のプリアンプで無効になります。

プリアンプのリンクを解除


プリアンプのリンクを解除するには、**Select** ボタンを1秒間長押しします。リンクを解除すると：

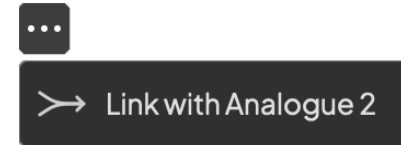
- リンクされていた最初のプリアンプが選択され、緑色に点灯します。
- ゲインレベルとプリアンプ設定は同じ設定となり、以後は個別に変更できます。


Focusrite Control 2 でプリアンプをリンクする

プリアンプをリンク

Focusrite Control 2 からプリアンプをリンクするには：


1. リンクしたいプリアンプにマウスカーソルを合わせます。
2. リーダーアイコン  をクリックします。
3. Link with Analogue 2 (入力名は選択したプリアンプによります) をクリックします。

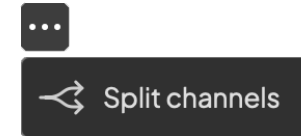


プリアンプがリンクされると、プリアンプ名の横に  アイコンが表示されます。

プリアンプのリンクを解除

Focusrite Control 2 でプリアンプのリンクを解除するには：

1. リンクを解除したいプリアンプにマウスカーソルを合わせます
2. リーダーアイコン  をクリックします。
3. Split channels を選択します。



- 以前にリンクされたペアの最初のプリアンプが選択され、緑色に点灯します。
- ゲインレベルとプリアンプ設定は同じままですが、個別に変更できるようになりました。

48V ボタン (ファンタム電源)

48V (別名ファンタム電源) は、電源を必要とする接続機器に 48V の電圧をインターフェースの XLR コネクタから供給します。主な用途はコンデンサーマイクですが、**48V** を必要とするインラインマイクプリアンプやアクティブダイナミックマイク、アクティブ DI ボックスなどにも使用できます。

48V を有効にするには :

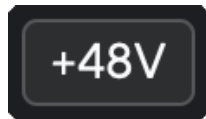
1. 電源を供給したいマイクやその他の機器を、XLR ケーブルでインターフェースの XLR 入力に接続します。**48V** は 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力には供給されません。
2. 不要なポップノイズやクリックノイズを避けるため、プリアンプの入力ゲインを下げます。
3. **48V** ボタン (またはソフトウェアの「+48V」ボタン) を押します。

48V アイコンが緑色に点灯し、48V ファンタム電源が有効になったことを示します。

48V ファンタム電源が Scarlett 2i2 の両方の XLR 入力および接続機器に供給されます。

48V (ファンタム電源) をソフトウェアで有効にする

48V (ファンタム電源) を Focusrite Control 2 で有効にするには、+48V ボタンをクリックします。Scarlett 2i2 ハードウェアの 48V ボタンでもファンタム電源を有効にできます。



+48V ファンタム電源オフ



+48V ファンタム電源オン



重要

大半のダイナミックマイクやリボンマイクでは、**48V** ファンタム電源を誤って供給しても問題が生じることはありません。ただし一部の旧型マイクの場合、ファンタム電源を供給することで悪影響を及ぼす可能性があります。お使いのマイクにファンタム電源が必要かどうか不明な場合は、マイクの取扱説明書を確認し、**48V** ファンタム電源で安全に使用できることをご確認ください。

Inst (インストゥルメント) ボタンおよびライン入力

Inst (インストゥルメント) ボタンは、選択チャンネルの 6.35mm (1/4 インチ) ライン入力にのみ有効となります。この機能を有効にすると、**ラインレベル**機器に適した入力から、**インストゥルメント**機器に適した入力に切り替わります。

Inst ボタンを押すと、6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力のインストゥルメントモードの有効/無効が交互に切り替わります。**Inst** を有効にすると **Inst** 表示が緑色に、無効にすると白色に点灯します。**Inst** を有効にして入力ジャックにケーブルを接続すると、入力ゲインの最小値が+7dB に変更されます。



注記

Inst 表示が白く点灯している場合は、6.35mm ジャック入力はラインレベルに最適化されていることを示します。

Inst を有効 (緑色に点灯) にすると、1/4 インチ入力にはインストゥルメントレベル機器を接続できます。以下は接続可能な機器の一例です。

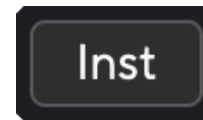
- ・エレクトリックギターおよびエレクトリックアコースティックギター (直接またはエフェクトペダル経由で接続)
- ・エレクトリックベース
- ・ピックアップを備えるアコースティック楽器 (バイオリンやコントラバスなど)

Inst を無効 (白色に点灯) にすると、6.35mm (1/4 インチ) 入力にラインレベル機器を接続できます。以下は接続可能な機器の一例です。

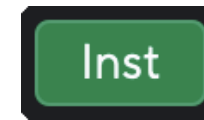
- ・シンセサイザー
- ・キーボード
- ・ドラムマシン
- ・外部マイクプリアンプ

インストゥルメント/ライン入力をソフトウェアで切り替える

インストゥルメント入力およびライン入力を Focusrite Control 2 から切り替えるには、対応するアイコンをクリックして表示されるドロップダウンメニューから目的の項目を選択します。



ライン



Instrument



注記

Inst と **Line** を切り替える際、ゲイン値は最後に設定されていた値に変更されます。

オートゲイン

オートゲインを開始し、Scarlett 2i2 へ信号を 10 秒間入力（マイクに向かって話す、または楽器を演奏）すると、プリアンプの入力ゲインが最適なレベルに自動的に設定されます。オートゲイン設定後、ゲインノブを用いてゲイン値を手動で微調整することもできます。

オートゲインを使用するには：

1. **Select** ボタンでオートゲインを設定したいプリアンプを選択します。
2. 本体の **Auto** ボタン、またはソフトウェアの Auto Gain ボタンを押します。**Auto** アイコンが 10 秒間緑色に点灯します。ゲイン Halo が 10 秒間のカウントダウンタイマーとして点灯を開始します。



3. オートゲインのカウントダウンが終了するまでマイクに向かって話す（または歌う）か、楽器を演奏します。このとき本番のレコーディングと同じ音量で演奏する（歌う）ことで、適切なレベルを設定できます。

カウントダウンが完了すると、ゲイン Halo が 1 秒間緑色に点灯した後、設定されたゲイン値が表示されます。以上でレコーディングに適切なレベルのゲイン設定が完了となります。

オートゲインの処理が失敗すると、ゲイン Halo は赤く点灯します。詳細は、「ゲイン Halo が赤く点灯した場合」をご参照ください。



注記

Scarlett のオートゲイン機能では、入力信号レベルの他に以下の要素も考慮に入れてレベルが設定されます。

- ・ プリアンプのノイズフロア
- ・ デジタルサイレンス
- ・ チャンネル間クロストーク
- ・ 意図しない振動や接触などによるノイズ

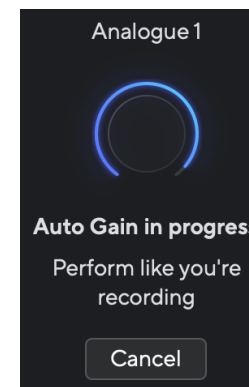
オートゲインをソフトウェアから実行する

Focusrite Control 2 でオートゲインを使用するには：

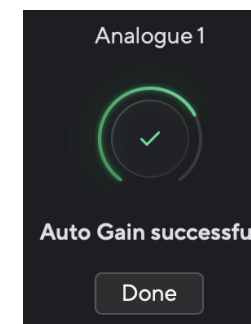
1. Focusrite Control 2 の Auto Gain ボタンをクリックします。

Auto Gain

2. オートゲインのカウントダウンが終了するまでマイクに向かって話す（または歌う）か、楽器を演奏します。このとき本番のレコーディングと同じ音量で演奏する（歌う）ことで、適切なレベルを設定できます。オートゲイン処理が開始され、ソフトウェア上のゲイン Halo がカウントダウンを始めます。



カウントダウンが完了すると、ゲイン Halo が 1 秒間緑色に点灯した後、設定されたゲイン値が表示されます。以上でレコーディングに適切なレベルのゲイン設定が完了となります。

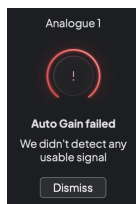


ゲイン Halo が赤く点灯した場合

入力信号がオートゲインに不適切（信号が入力されない等）だった場合は、10 秒後にオートゲイン処理が停止し、ゲイン Halo が 1 秒間赤く点灯します。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。



本体のゲイン Halo



Focusrite Control 2 オートゲイン失敗

オートゲインを再び開始する前に、入力機器が適切に接続されていること、オートゲイン実行中に入力信号が出力されていることをご確認ください。またコンデンサーマイクを使用する場合は、48V が有効となっていることをご確認ください。



注記

オートゲイン実行中に Auto Gain ボタンを再度押すと、いつでも処理を中止できます。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。

マルチチャンネルオートゲイン

オートゲインを開始し、Scarlett 2i2 へ信号を 10 秒間入力（マイクに向かって話す、または楽器を演奏）すると、プリアンプの入力ゲインが最適なレベルに自動的に設定されます。オートゲイン設定後、ゲインノブを用いてゲイン値を手動で微調整することもできます。

マルチチャンネルオートゲイン機能では、インターフェースのすべてのプリアンプチャンネルでオートゲイン処理が実行されます。複数チャンネルを同時に録音する場合に、入力レベルを素早く設定できる便利な機能であり、以下のような場面で活用できます。

- ・ギターを演奏しながら同時にボーカルも録音する場合
- ・複数のマイクでドラムキットを録音する場合
- ・バンドの同時録音

マルチチャンネルオートゲインを開始するには：

1. **Auto** ボタンを 2 秒間長押しします。
Auto アイコンが 10 秒間、緑色にゆっくりと点滅し、すべてのチャンネルのゲイン Halo が 10 秒間カウントダウンを開始します。
2. オートゲインのカウントダウンが終了するまでマイクに向かって話す（または歌う）か、楽器を演奏します。このとき本番のレコーディングと同じ音量で演奏する（歌う）ことで、適切なレベルを設定できます。

オートゲインのカウントダウンが完了すると、ゲイン Halo が 1 秒間緑色に点灯した後、設定されたゲイン値が表示されます。以上でレコーディングに適切なレベルのゲイン設定が完了となります。



注記

オートゲイン実行中に Auto Gain ボタンを再度押すと、いつでも処理を中止できます。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。

クリップセーフボタン

Safe ボタンを押すとクリップセーフ機能が有効になり、入力信号のクリッピングが生じる恐れのある場合に、プリアンプの入カゲインが自動的に調整されます。

クリッピングは、プリアンプのオーバーロードにより発生する現象で、入力信号に対してゲイン設定が高すぎると発生しやすくなります。プリアンプの歪みであるクリッピングは不快なサウンドになることが多く、録音テイクを台無しにする可能性があります。クリップセーフはこれを回避するのに役立つ機能であり、入力信号レベルが高くなりクリッピングの恐れが生じると、プリアンプのゲインが自動的に制御されます。そのため、クリップセーフを使うことでテイクの録り直しを防ぐことができます。



注記

クリップセーフ機能は、96kHz までのサンプルレートでのみ使用できます。クワッドバンド (サンプルレート 176.4kHz および 192kHz) では使用できません。この場合には Safe LED が赤く点灯し、使用できないことを示します。

クリップセーフを有効にするには：

1. **Select** ボタンでオートゲインを設定したいプリアンプを選択します。
2. 本体の **Safe** ボタンを押すが、ソフトウェアの Safe ボタンをクリックします。

クリップセーフを有効にすると、**Safe** アイコンが緑色に点灯します。クリップセーフアイコンは、クリップセーフモードが無効かつ使用可能である場合に、白く点灯します。

プリアンプのリンク機能を使用して 2 つの入力を選択中は、**Safe** がいずれのプリアンプにも適用されます。



ヒント

クリップセーフを有効にすると、Scarlett が入力信号を毎秒最大 96000 回のペースで監視します。アナログプリアンプのコントロールと DSP を併用することで、クリッピングのリスクが大幅に抑えられます。

Focusrite Control 2 でクリップセーフを使用する

Focusrite Control 2 でクリップセーフ機能を有効にするには、Safe ボタンをクリックします。



クリップセーフオフ



クリップセーフオン

Air モード

Air モードを有効にすると、Scarlett のプリアンプを異なるキャラクターを持つ 2 つのモードで使用できます (Air Presence、Air Presence & Harmonic Drive)。Air モードは、マイク、ライン、インストゥルメント入力に適用されます。

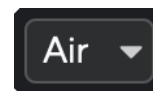
空気はマイク、ライン、楽器の入力に影響を与えます。

Air モードを有効にするには目的の入力を選択し、Air ボタンを押します。ボタンを 1 回押すと Air Presence モード、2 回押すと Air Presence & Harmonic Drive モードとなり、再度ボタンを押すと Air モードが無効になります。選択中もモードに応じて Air LED の色が変わります。

| モード | 説明 | AIR LED | メモ |
|-------------------------------|-----------------------------------|---------|----------------------------|
| Off | クリーンなプリアンプ | 白 | |
| Air Presence | アナログ回路によりソース信号のプレゼンスが強調されます。 | 緑 | |
| Air Presence & Harmonic Drive | アナログ Air 回路に加え、ソース信号に倍音成分が付与されます。 | オレンジ | 96kHz までのサンプルレートでのみ使用可能です。 |

Air モードをソフトウェアから使用する

Air モードを Focusrite Control 2 で有効にするには、Air ボタンをクリックします。Scarlett 2i2 本体の Air ボタンで Air モードを有効にするのと同様となります。



Air モードオフ

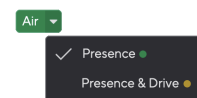


Air Presence が選択中

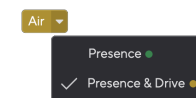


Air Presence and Drive が選択中

Focusrite Control 2 の Air ボタンをクリックすると、前回選択されていた Air モードが有効になります。Air モードを変更するには、矢印アイコンをクリックして表示されるポップアップメニューから目的のモード (Presence または Presence & Drive) を選択します。



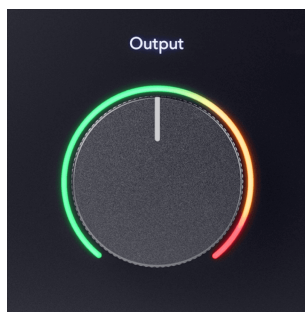
Air Presence が選択中



Air Presence and Drive が選択中

**注記**

Air Presence & Drive モードは、96kHz までのサンプルレートでのみ使用できます。クワッドバンド (サンプルレート 176.4kHz および 192kHz) では使用できません。

Output ノブおよびレベルメーター

Output ノブおよび出力レベルメーターは、Scarlett 2i2 のリアパネルにある Outputs 1 および 2 からの信号レベルを調整/監視します。この出力部は多くの場合、モニタースピーカーに接続されます。

Output ノブは、出力レベルをゼロ (左回り一杯) からフルスケール (右回り一杯) の範囲で変更できます。

Output ノブの周囲にあるレベルメーターは、ノブの位置に関係なくコンピュータからの信号レベルを表示するプリフェーダー仕様のメーターです。


**注記**

Output ノブが左一杯の位置にあるにも関わらずスピーカーから音が聴こえる場合は、モニターレベルを調整することでこれを解決できます：

1. インターフェースの **Output ノブ**およびスピーカーのレベルを下げます。
2. 次に **Output ノブ**を最大値 (または最大値より若干低い値) に設定します。
3. システムでサウンドを再生します。
4. スピーカーのレベルコントロールを、必要となる最大レベルまで上げます。


この状態で **Output ノブ**を最小値にすると、音が聴こえなくなります。上記の設定を行うことで、**Output ノブ**の全範囲を使用してレベル調整が行えるようになるため、より繊細なレベル調整が可能になります。さらに、最大値を少し下回るノブの位置でスピーカーレベルを調整することで、必要に応じてボリュームを更に上げたり、通常よりも大きなレベルでモニターすることが可能になります。


ダイレクトモニターボタン

ダイレクトモニター  機能を使用すると、インターフェースへの入力信号をコンピュータを經由せずに直接聴くことができるため、不要なレイテンシーやエフェクトが適用される前の入力信号をモニターできます。


ダイレクトモニタリングは、主に以下の場面で使用されます：

1. 発音タイミングからソフトウェア経由でインターフェースから音が出力されるまでにレイテンシーまたは遅延を感じる場合—ソフトウェアの入力をミュートし、ダイレクトモニターを有効にすることで、レイテンシーは無くなります。
2. ソフトウェアから出力されるプラグインを通したエフェクト音ではなく、Scarlett へ入力された直後のクリーンな入力信号をモニターしたい場合。

ダイレクトモニターがオフのとき、 アイコンは白く点灯します。Scarlett 2i2 では、モノラルとステレオの 2 種類のダイレクトモニター設定を選択できます。設定方法は以下の通りです：

-  ボタンを 1 回押すと、**モノラルダイレクトモニタリング**が有効になります。入力 1 と入力 2 の信号がいずれもステレオイメージのセンターに出力されます。この設定はギターやボーカルなど、2 系統のモノラル信号を録音する場合に便利です。



-  ボタンを 2 回押すと、**ステレオダイレクトモニタリング**が有効になります。入力 1 が左、入力 2 が右にパンニングされて出力されます。この設定はステレオマイクやシンセサイザー、キーボードなどのステレオ機器を録音する場合に便利です。

**注記**

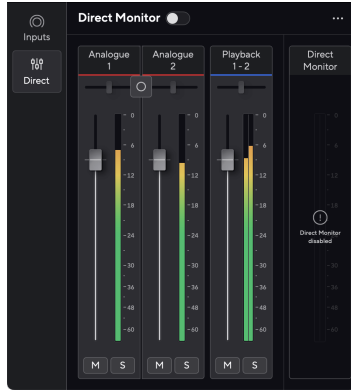
信号が 2 回聴こえたり、ダブリングや僅かな位相ずれが発生する場合は、ダイレクトモニターがオンになっていると同時にソフトウェアからの信号が出力されている可能性があります。その場合は、以下のいずれかの方法で解決できます。

- DAW ソフトウェアで録音トラックをミュートします。
- ダイレクトモニターをオフにして、DAW ソフトウェアからの信号のみを出力させます。

モニターの直接調整

から Focusrite Control 2 ダイレクト モニター ミックスを有効にして調整して、入力とソフトウェアの再生チャンネルのバランスをとることができます。

Direct Monitor を有効にするには、Focusrite Control 2 の Direct タブをクリックし、タブの上部にある Direct Monitor ソフトウェアスイッチをクリックします。スイッチは緑色に点灯し、ダイレクトは緑色に点灯します。Scarlett 2i2 のフロントパネル。



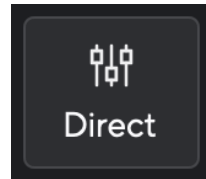
ダイレクトモニターオフ



ダイレクトモニターオン

ダイレクト・モニター・ミックスを調整するには:

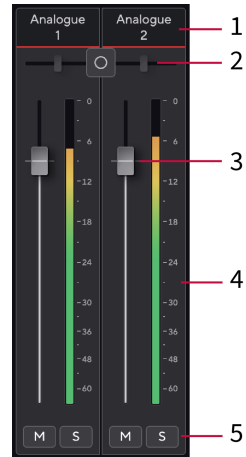
1. 開ける Focusrite Control 2。
2. 「ダイレクト」タブをクリックします。



3. ミキサーチャンネル(フェーダー、ミュート、ソロ ボタン)を使用して、アナログ 1、アナログ 2、および再生 1-2 のレベルを調整します。
最終メーター下 **ダイレクトモニター** は、モニター出力とヘッドフォン出力に送られる結合レベルを示しています。

ミキサーチャンネルの使用

各ミキサーチャンネルでは、様々な設定が行えます。



1. ミキサーチャンネル名

ミキサー入力名が表示されます。

2. ステレオ/モノラルスイッチそしてパン

チャンネル間のダイレクト・モニター・モード・ボタンは、ダイレクト・モニター・モードをモノラル間で変更します。☐そしてステレオ🔊。

両側のパンインジケータは、ダイレクトモニターミックス内でそのチャンネルがパンされている場所を示します。パンは編集できず、選択したダイレクトモニターに応じて、中央(モノラル)左端と右端(ステレオ)の2つの状態があります。

3. フェーダー

フェーダーは、ミックス先へのレベルを調整します。Altキー、オプション⌘キー、またはダブルクリックしてリセットします。

フェーダーは、録音されるソースの信号レベルには影響しません。

4. メーター

チャンネルレベルを dBFS 単位で表示します。緑色はレベルが良好、橙色はレベルが非常に高いことを示します。

ステレオチャンネルでは2つのメーターが表示され、左右チャンネルのレベルを確認できます。

メーターは、ポストフェーダーのレベルを表示します。つまりフェーダーの値がメーター表示に影響します。

5. ミュートおよびソロ

ミュート - **M** ボタンをクリックすると、ミックス内でそのチャンネルが無音になります。ミュートを有効にすると、ミュートボタンが青色に点灯します **M**。複数のチャンネルを同時にミュートすることもできます。

ソロ - **S** ボタンをクリックすると、ミックス内のその他のチャンネルが無音になります。ソロを有効にすると、ソロボタンが黄色に点灯します **S**。複数のチャンネルを同時にソロに設定することも可能です。この場合は、ソロにされていないすべてのチャンネルがミュートされます。

ミュートとソロを同時に有効にすると、最後にクリックされたボタンが優先的に有効になります。

ヘッドフォン出力



ヘッドフォン出力部は 6.35mm (1/4 インチ) TRS ジャック用となっています。多くのヘッドフォンの端子は 3.5mm TRS ジャックとなっていますが、これらのヘッドフォンを Scarlett 2i2 に接続するには、TRS 6.35mm - 3.5mm 変換アダプターを使用してください。

ヘッドフォン出力レベルはヘッドフォン出力コネクタ上部のノブで調整できます。

一部の高インピーダンスヘッドフォンを Scarlett 2i2 で使用すると、ヘッドフォンボリュームが十分とまらない場合があります。そのため、インピーダンス 300Ω 以下のヘッドフォンの使用をお勧めします。



注記

一部のヘッドフォンおよびジャックアダプターの中には、TS または TRRS コネクタを備えているものがあります(マイクやボリュームコントロールがケーブルに組み込まれている製品など)。これらのヘッドフォンは Scarlett で正常に使用できない可能性があるため、問題が発生した場合は TRS 仕様のヘッドフォンおよびジャックアダプターを使用してください。

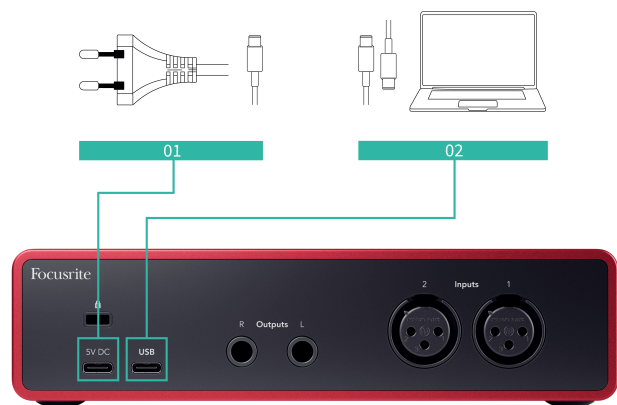
リアパネルの詳細

本章では、Scarlett 2i2 のリアパネルのすべての機能を紹介し、Focusrite Control 2 での操作方法についても解説します。

USB 接続

USB ポート

USB と記載されている USB タイプ C ポートは、Scarlett とコンピュータを接続するために使用します。



コンピュータと接続することで、USB 電源供給、双方向オーディオ伝送、Focusrite Control 2 への接続が確立されます。

5V DC ポート

ほとんどのコンピュータでは、こちらの **5V DC** ポートは不要となります。USB ポートが 900mA の出力に対応していない一部のコンピュータを使用する場合は、**5V DC** ポートに USB 電源アダプターを接続することで、Scarlett を駆動できます。

Scarlett 2i2 は多くの電力を消費します。コンピュータによっては大音量でヘッドフォンを再生する場合などの電力消費が高くなる状況で USB ポートから十分な電力を供給できず、Scarlett 2i2 の接続が切断されたり、USB アイコンが赤く点滅する場合があります。

これらの症状が発生した場合は、**5V DC** ポートに USB 電源アダプターを接続し、Scarlett に電源を供給してください。



USB アイコンが赤く点滅する場合

USB アイコンが赤く点滅する場合は、Scarlett 2i2 に十分な電源が供給されていないことを意味します。

この問題を解決するには：

- Scarlett 付属の USB ケーブルを使用していることを確認します。
- コンピュータの別の USB ポートに USB ケーブルを接続し直します。また USB ハブを使用せずコンピュータと Scarlett を直接接続します。
- 必要に応じて Scarlett 2i2 リアパネルの **5V DC** ポートを使用します。USB 電源アダプターからの USB ケーブルをこのポートに接続します。オーディオ再生中に電源アダプターを接続しないようご注意ください。

スピーカー出力

Outputs L および **R** は、Scarlett 2i2 をアンプやアクティブモニターに接続するためのラインレベル出力です。バランス 1/4 インチ TRS ジャックを備え、アンバランス TS またはバランス TRS ケーブルを使用できます。

Scarlett 2i2 のフロントパネルにある **Output** ノブにて、**Outputs L** および **R** に送られる信号レベルを調整できます。

マイク入力

3 ピン XLR コネクタ **Input** は、マイクを接続するための入力端子です。

マイク入力レベルは、フロントパネルの対応する入力ゲインノブで調整できます。コンデンサーマイクを使用する場合は、48V ファンタム電源も利用できます。ファンタム電源は、フロントパネルの 48V ボタンで有効にできます。



ヒント

Scarlett 2i2 は、リアパネルにマイク用 XLR 入力を、フロントパネルにインストールメントおよびラインレベル機器用 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力を備えます。

フロントパネルの入力ジャックにケーブルを接続すると、リアパネルの XLR マイク入力が無効になります。XLR 入力にマイクを接続しても音が出ない場合は、フロントパネルの入力ジャックにケーブルが接続されていないことをご確認ください。

DAW (録音ソフトウェア) のセットアップ

Scarlett は、ASIO (Windows) および Core Audio (macOS) に対応する DAW で使用できません。

以下では、主要な DAW で Scarlett をセットアップしレコーディングを開始するための手順を紹介します。より詳しい情報は、お使いの DAW のユーザーガイドをご参照ください。

コンピュータに以下で解説する DAW がインストールされていない場合は、Scarlett 付属の Ableton Live Lite および Pro Tools Artist をご利用ください。これらの DAW は [イージースター](#) [5](#) または [Focusrite アカウント](#) からダウンロード可能です。



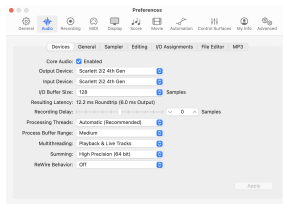
ヒント DAW とは？

DAW (デジタルオーディオワークステーション) とは、音楽のレコーディング、アレンジ、制作を行うためのソフトウェア全般を指す用語です。

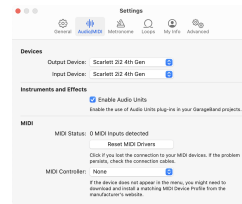
Logic および GarageBand

Logic Pro および GarageBand のセットアップ手順は以下の通りです：

1. コンピュータにインストールされている Logic Pro または GarageBand を起動します。プロジェクトを選択ダイアログが表示された場合は、空のプロジェクトを選択するか、テンプレートを選択します。
2. **トラックのタイプを選択**ウィンドウでオーディオを選択します。
3. **入力**を入力 1 に設定します。
入力が表示されない場合は、**デバイス：**が Scarlett 2i2 に設定されているかを確認します。
 - a. デバイスセクション右の矢印をクリックします。
 - b. 設定ウィンドウの**出力デバイス**および**入力デバイス**で Scarlett 2i2 4th Gen を選択します。

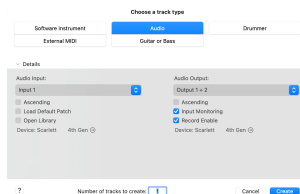


Logic Pro X

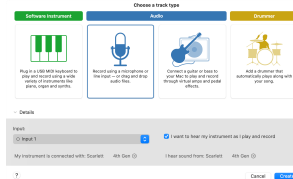


GarageBand

- c. **適用**をクリックします (Logic のみ)。
 - d. **環境設定**または**設定**ウィンドウを閉じます。
4. Logic Pro : **入力モニタリング**と**録音を可能にする**のチェックボックスを選択します。
GarageBand : **演奏や録音中に自分の音源の音を聴く**のチェックボックスを選択します。
これにより Scarlett から入力される信号を聴くことができます。
 5. **作成**をクリックします。

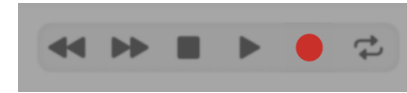


Logic Pro



GarageBand

6. 録音の準備ができたなら、Logic/GarageBand の録音ボタンをクリックします。

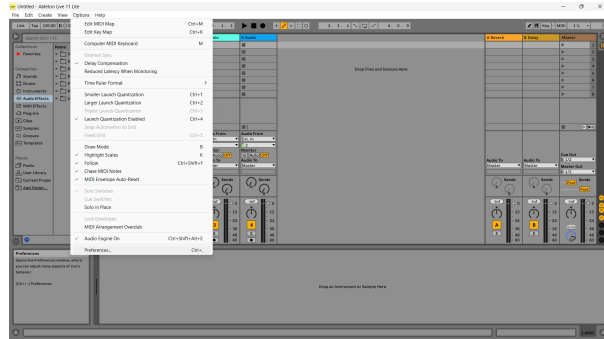


Ableton Live

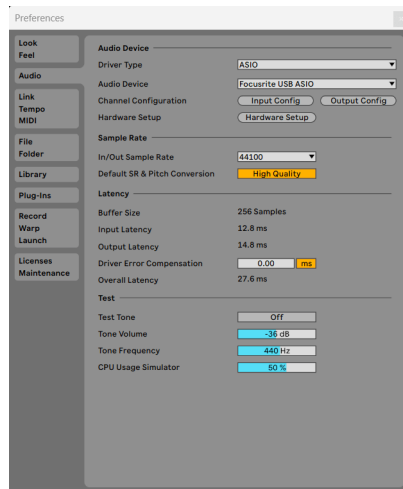
Ableton Live のセットアップ手順は、以下の通りです：

Windows

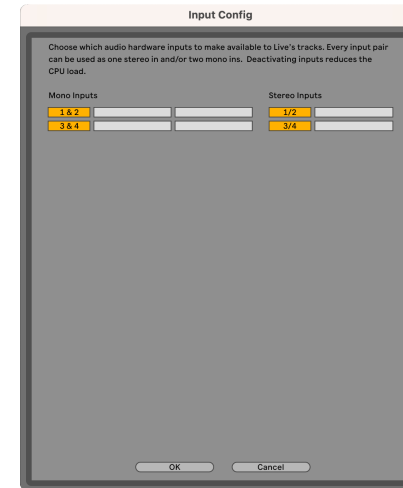
1. コンピュータにインストールされている Ableton Live を起動します。
2. オプション > 環境設定... を選択します。



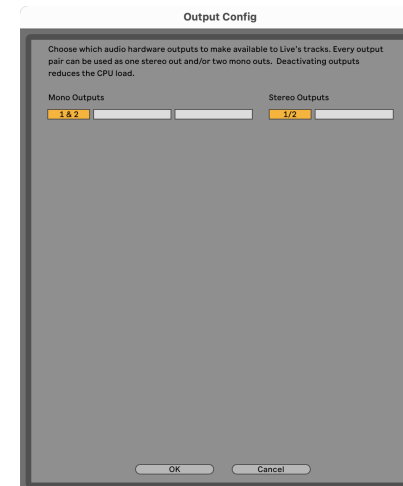
3. 環境設定ウィンドウの左側の項目から **Audio** タブを選択します。
4. **ドライバタイプ**で **ASIO** を、**オーディオデバイス**で **Focusrite USB ASIO** を選択します。



5. 入力設定をクリックします。
次の手順では、インターフェースのすべての入力を Ableton Live の入力チャンネルとして表示させるための設定を行います。
6. **モノ**および**ステレオ**入力の各項目をクリックして選択します。ここで選択した項目が、Live の入力チャンネルとして選択可能になります。



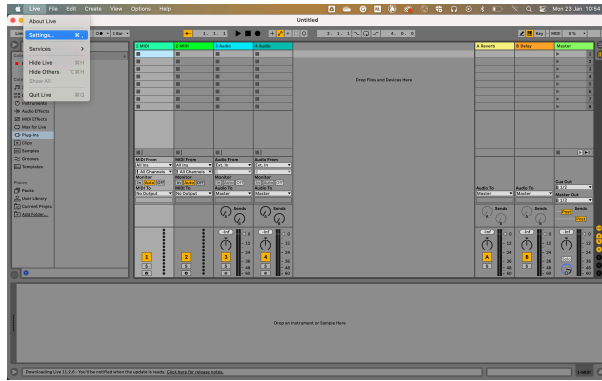
7. **OK** をクリックします。
8. Scarlett 2i2 から複数チャンネルを出力したい場合は、**出力設定**で同様の設定を行います。



9. 環境設定ウィンドウを閉じます。

Mac

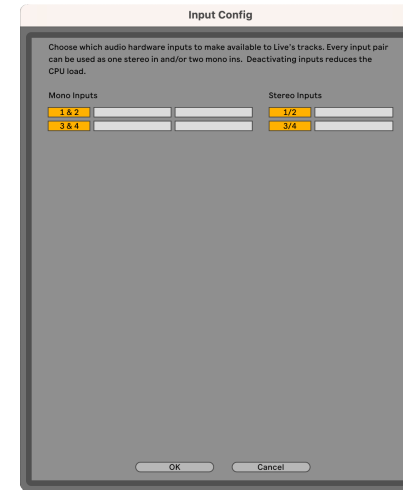
1. コンピュータにインストールされている Ableton Live を起動します。
2. メニューバーの **Live** をクリックします。



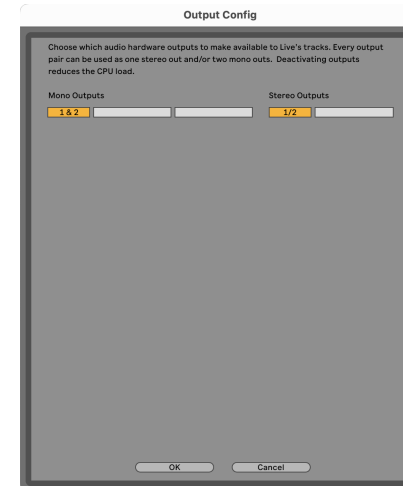
3. **設定...**をクリックします。
4. 環境設定ウインドウの左側の項目から **Audio** タブを選択します。
5. **オーディオ入力デバイス**および**オーディオ出力デバイス**で **Scarlett 2i2 4th Gen** を選択します。



6. **入力設定**をクリックします。
次の手順では、インターフェースのすべての入力を Ableton Live の入力チャンネルとして表示させるための設定を行います。
7. **モノ**および**ステレオ**入力の各項目をクリックして選択します。ここで選択した項目が、Live の入力チャンネルとして選択可能になります。これにより、最大 four チャンネルの入力が Live に表示されます。



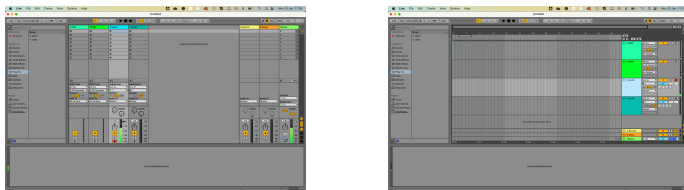
8. **OK** をクリックします。
9. Scarlett 2i2 から複数チャンネルを出力したい場合は、**出力設定**で同様の設定を行います。



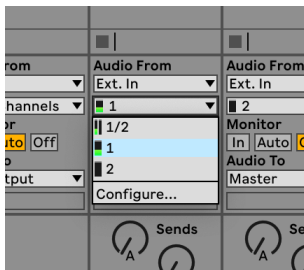
10. 環境設定ウインドウを閉じます。

Ableton Live で録音する

1. Ableton Live のメインウィンドウでオーディオトラックをクリックします。Live には 2 種類のビュー (セッションビューおよびアレンジメントビュー) がありません。下のスクリーンショットは、各ビューでオーディオトラックを選択した様子を示しています。



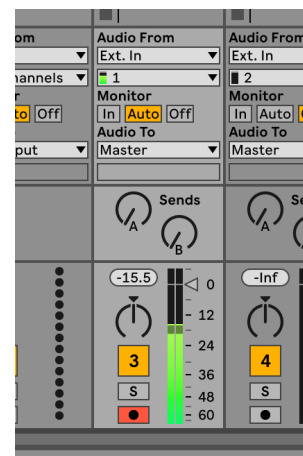
2. **Audio From** のドロップダウンメニューから **Ext. In** を選択し、入力チャンネルをインターフェースで使用する入力 (1 など) に設定します。



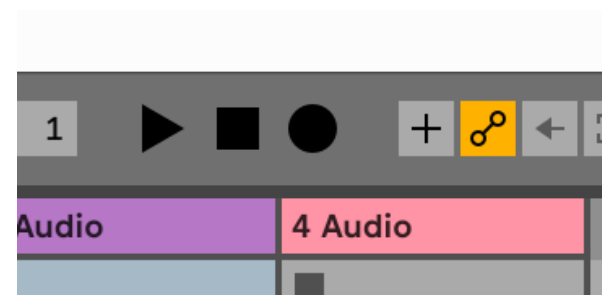
3. **Monitor** で **Auto** を選択します。これにより Scarlett から入力される信号を聴くことができます。



4. トラック下部のアームボタンをクリックします。トラックアームが赤く点灯し、アームが有効になったことを示します。Scarlett へ信号が入力されると、Ableton Live の入力メーターが反応します。



5. 録音の準備ができたら、トランスポートバーの  をクリックします。

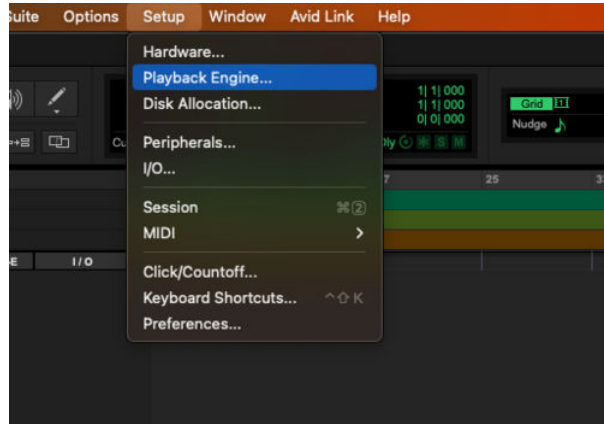


Pro Tools

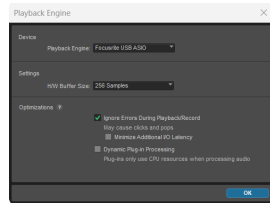
Pro Tools のセットアップ手順は、以下の通りです：

Mac および Windows

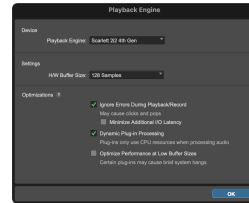
1. コンピュータにインストールされている Pro Tools を起動します。
2. メニューから設定 > プレイバックエンジン... を選択します。



3. プレイバックエンジンのドロップダウンメニューで Focusrite USB ASIO (Windows) または Scarlett 2i2 4th Gen を選択します。

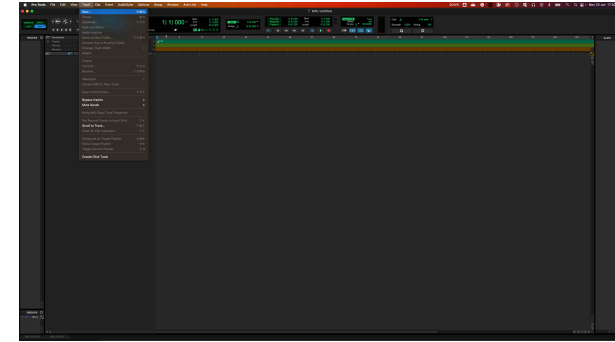


Windows

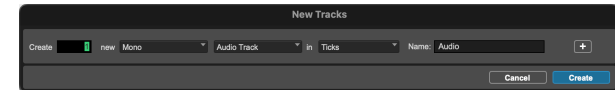







Mac

4. メニューからトラック > 新規... を選択します。



5. 必要なトラック数を入力し、トラックのタイプでオーディオトラックを選択します。



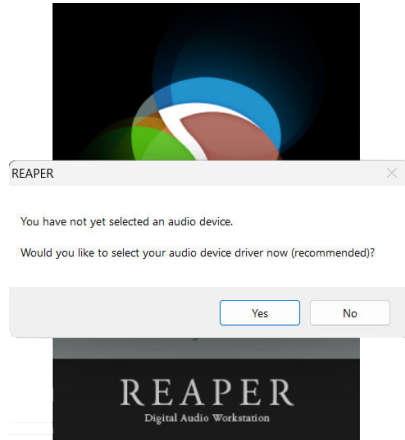
6. 作成をクリックします。
7. トラックのレコードアームボタン  およびインプットモニターボタン  をクリックします。
これにより Scarlett から入力される信号を聴くことができます。
8. Pro Tools ウィンドウ上部の録音ボタン  をクリックすると、ボタンが赤く点灯します .
9. 再生ボタン  を押すと、録音が始まります。



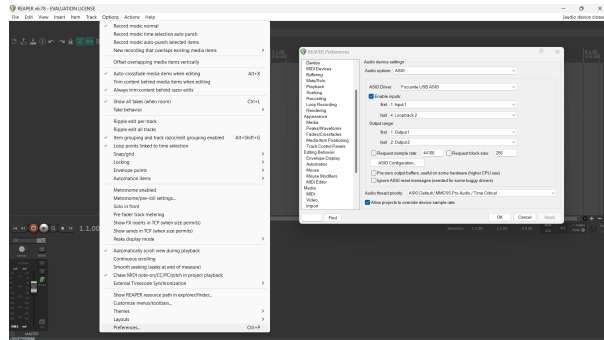
Reaper のセットアップ手順は、以下の通りです：

Windows

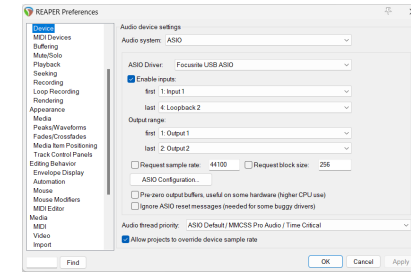
1. コンピュータにインストールされている Reaper を起動します。
2. オーディオデバイスドライバーの選択を促すポップアップウィンドウが表示された場合は、**Yes** をクリックします。



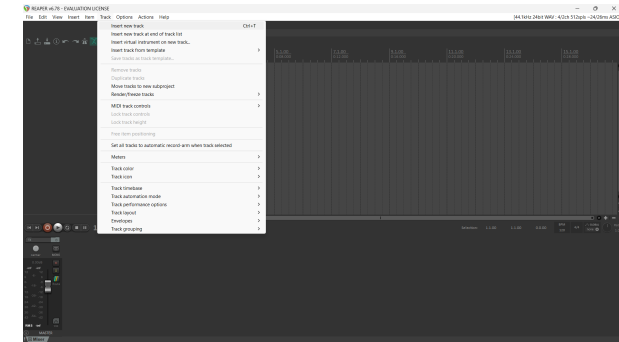
ポップアップウィンドウが表示されなかった場合は、メニューから **Options > Preferences > Device** を選択します。



3. **Audio device settings** が表示されます。



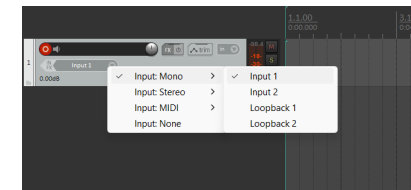
- a. **Audio** : ドロップダウンメニューで ASIO を選択します。
 - b. **ASIO Driver**: ドロップダウンメニューで Focusrite USB ASIO を選択します。
4. **OK** をクリックします。
 5. トップメニューから **Track > Insert New Track** を選択します。



6. 赤色の録音アームボタンをクリックします。



7. **Input 1** ボックスをクリックし、Scarlett 2i2 の入力を選択します。

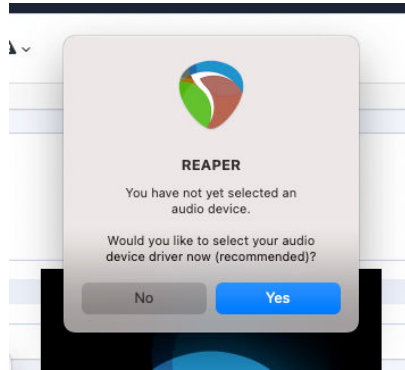


8. 録音の準備ができたなら、ウィンドウ下部の録音ボタンをクリックします。

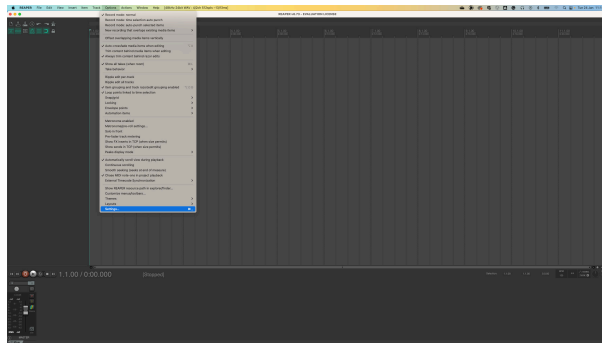
Mac

1. コンピュータにインストールされている Reaper を起動します。

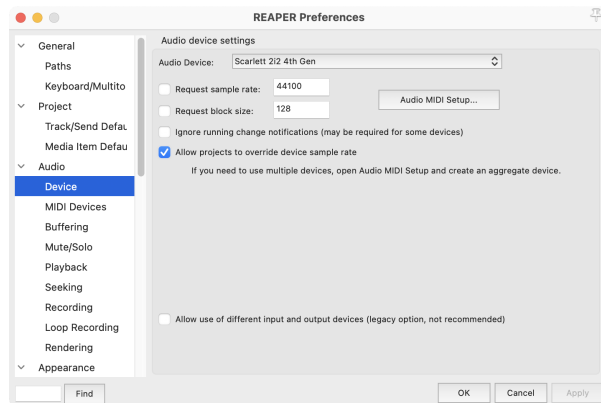
- オーディオデバイスドライバの選択を促すポップアップウィンドウが表示された場合は、**Yes** をクリックします。



ポップアップウィンドウが表示されなかった場合は、メニューから **Options &t; Settings &t; Device** を選択します。

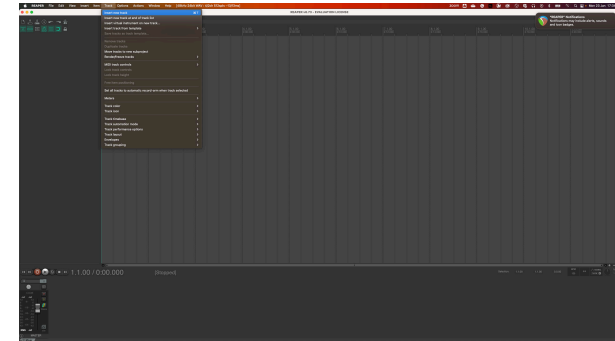


- Audio Device** ドロップダウンメニューで **Scarlett 2i2** を選択します。



- OK** をクリックします。

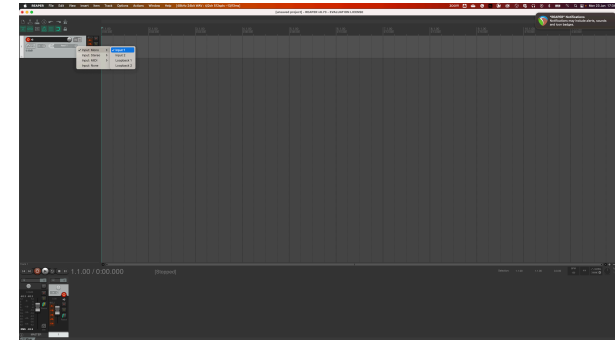
- トップメニューから **Track &t; Insert New Track** を選択します。



- 赤色の録音アームボタンをクリックします。



- Input 1** ボックスをクリックし、Scarlett 2i2 の入力を選択します。

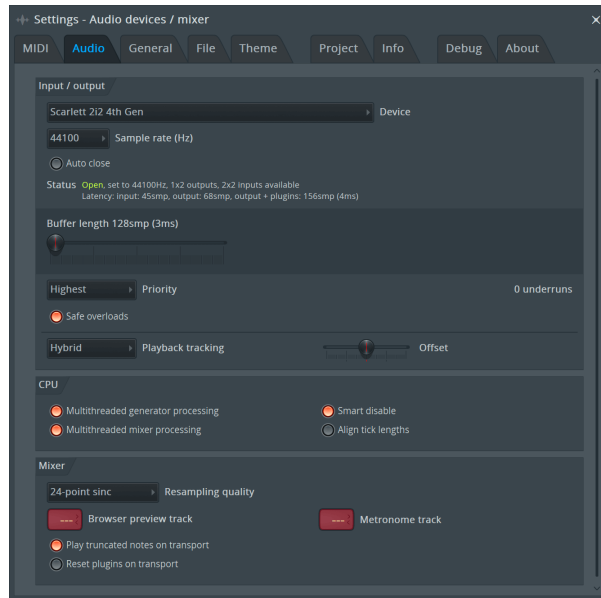


- 録音の準備ができたなら、ウィンドウ下部の録音ボタンをクリックします。

FL Studio

FL Studio のセットアップ手順は、以下の通りです：

1. コンピュータにインストールされている FL Studio を起動します。
2. **Options** & **Audio Settings** を選択します。
3. **Input / output** セクションの Device ドロップダウンメニューで Scarlett 2i2 4th Gen (Windows では Focusrite USB ASIO) を選択します。



4. Settings ウィンドウを閉じます。
5. **Mixer** ウィンドウを開き、録音したいトラックのインサートを選択します。
6. **(none)**となっている外部入力のドロップダウンメニューにて、使用するインターフェイス入力を選択します。例：モノラル入力の場合 **Input 1**、ステレオ入力の場合 **Input 1 - Input 2** を選択。



7. トランスポートセクションの録音ボタンをクリックします。



- 表示される **What would you like to record?** ウィンドウで必要に応じてオプションを選択します。
選択オプションに関する詳細は、FL Studio のヘルプファイルをご参照ください。

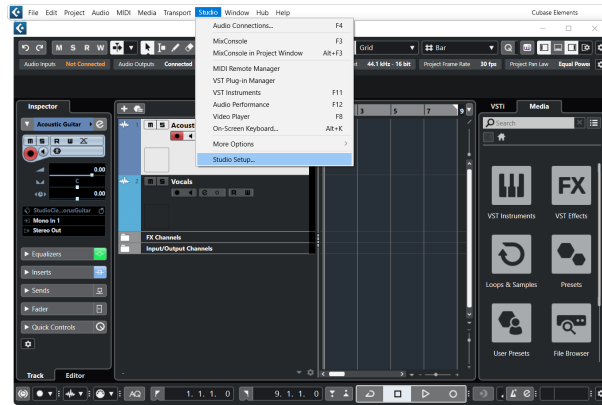
8. 録音の準備ができたら、トランスポートセクションの再生ボタンをクリックします。



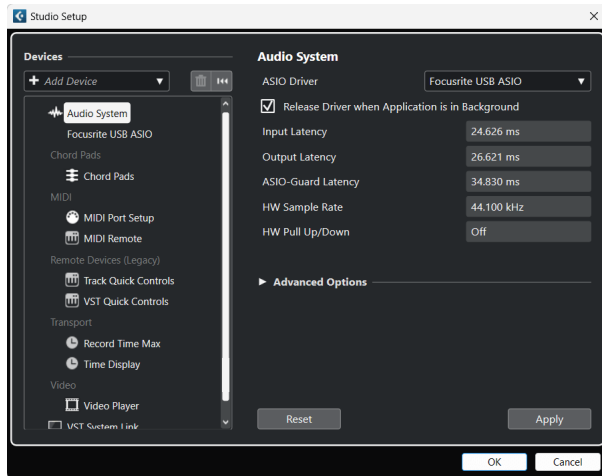
Cubase

Windows

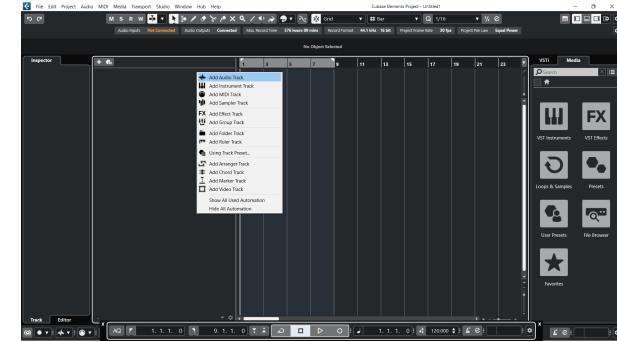
1. コンピュータにインストールされている Cubase を起動します。
2. トップメニューからスタジオ > スタジオ設定...を選択します。



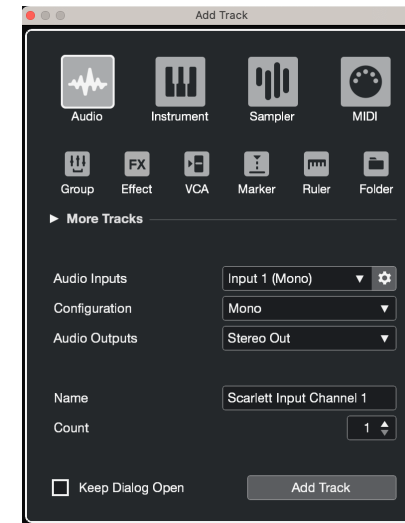
3. ウィンドウ左側の項目から、オーディオシステムを選択します。
4. **ASIO ドライバー**ポップアップメニューで Focusrite USB ASIO を選択します。



5. 適用をクリックします。
6. MixConsole 内を右クリックします。
7. Audioトラックを追加をクリックします。



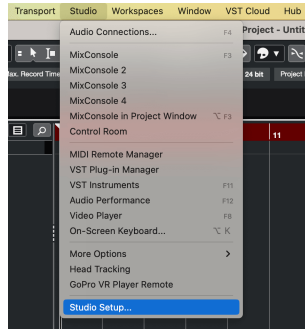
8. トラックタイプをオーディオに設定し、オーディオ入力をお使いのインターフェースの入力チャンネルに設定します。



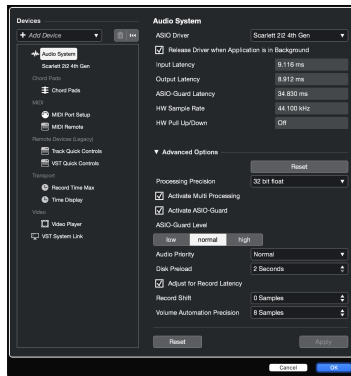
9. トラックを追加をクリックします。
10. 録音したい Cubase のチャンネルで録音可能ボタンとモニタリングボタン (オフ) をクリックすると、録音が有効になると同時に入力信号のモニタリングが有効になります。
11. トラックタイプをオーディオに設定し、オーディオ入力をお使いのインターフェースの入力チャンネルに設定します。

Mac

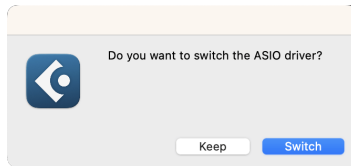
1. コンピュータにインストールされている Cubase を起動します。
2. トップメニューからスタジオ > スタジオ設定...を選択します。



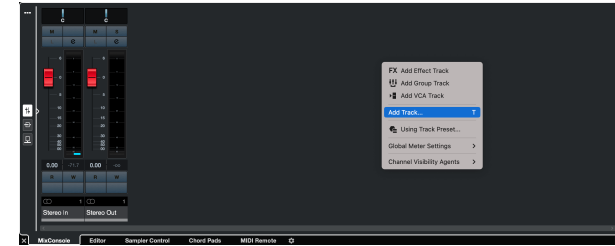
3. ASIO ドライバーを Scarlett 2i2 4th Gen に選択します。



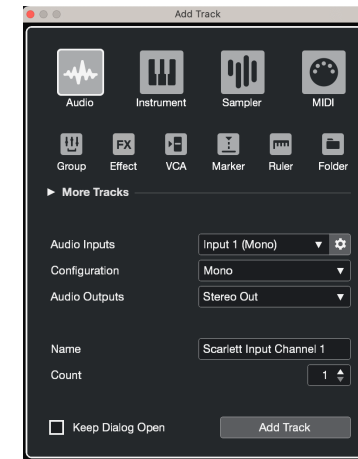
4. 切り替えをクリックします。



5. 適用をクリックします。
6. MixConsole 内を右クリックします。
7. トラックを追加をクリックします。



8. トラックタイプをオーディオに設定し、オーディオ入力をお使いのインターフェースの入力チャンネルに設定します。



9. トラックを追加をクリックします。
10. 録音したい Cubase のチャンネルで録音可能ボタンとモニタリングボタン (オフ) をクリックすると、録音が有効になると同時に入力信号のモニタリングが有効になります。
11. トランスポートパネルで録音ボタン をクリックすると、録音が始まります。

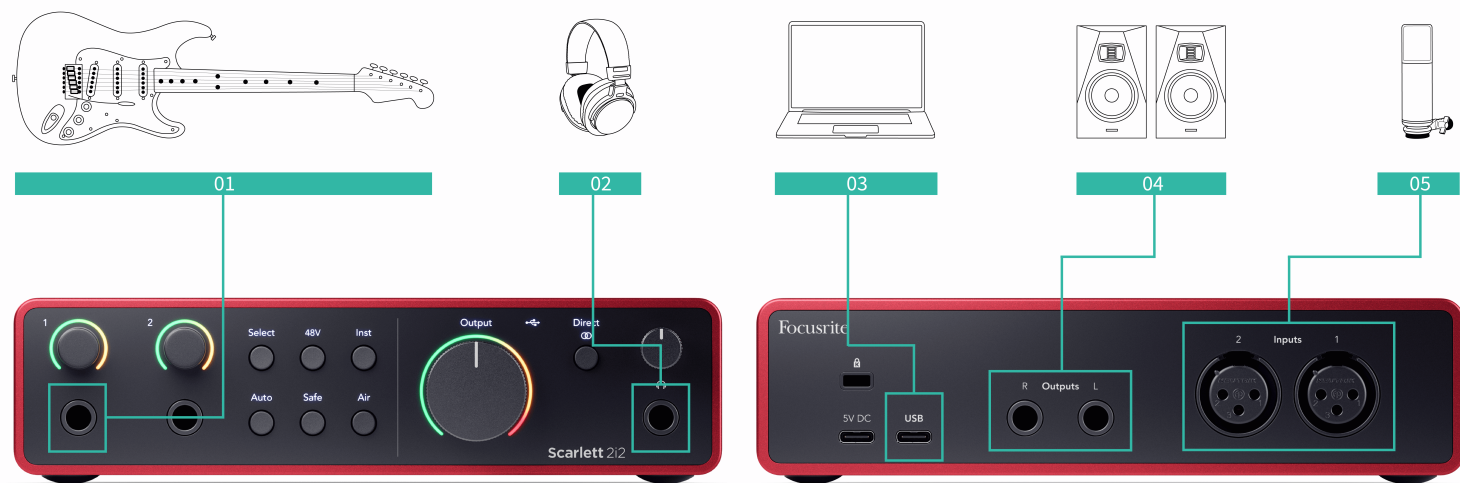


使用例

入出力の接続

下の図は、様々な入出力機器と Scarlett 2i2 の接続例です。

外部プロセッサやシンセサイザー、キーボードの接続方法については、[ラインレベル機器を接続する \[35\]](#)をご参照ください。



1. ギター、ベース、エレクトリックアコースティックギターやその他の楽器をフロントパネルの 6.35mm ジャック入力 1 または 2 に接続します。楽器を接続する場合は、6.35mm - 6.35mm TS モノラルケーブルを使用し、**Inst** ボタンでインストールメント入力を有効にします。
2. ヘッドフォン (Scarlett SH-450 など) を 6.35mm ジャックを使用してヘッドフォン出力に接続します。ヘッドフォンの接続には、TRS ジャックコネクタを使用する必要があります。お使いのヘッドフォンのジャックコネクタが小さい場合は、変換アダプターを使用してください。
3. XLR - XLR ケーブルを使用してマイク (CM25 MkIII など) を入力 1 または 2 に接続します。マイクの接続には XLR ケーブルを使用する必要があります。その他のケーブルで接続すると、マイクが機能しないか、問題が生じる場合があります。必要に応じて 48V ファンタム電源を有効にします。
4. モニタースピーカー (モニターとも呼ばれます) を出力 R および L (左右チャンネル) に接続します。モニタースピーカーとの接続には、6.35mm バランス TRS

を使用してください。お使いのモニタースピーカーが TRS 接続に対応していない場合の対処法は、モニタースピーカーのユーザーガイドをご参照ください。

5. Scarlett とコンピュータを **USB** ケーブルで接続します。



ヒント

Scarlett 2i2 は、リアパネルにマイク用 XLR 入力を、フロントパネルにインストールメントおよびラインレベル機器用 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力を備えます。

フロントパネルの入力ジャックにケーブルを接続すると、リアパネルの XLR マイク入力が無効になります。XLR 入力にマイクを接続しても音が出ない場合は、フロントパネルの入力ジャックにケーブルが接続されていないことをご確認ください。

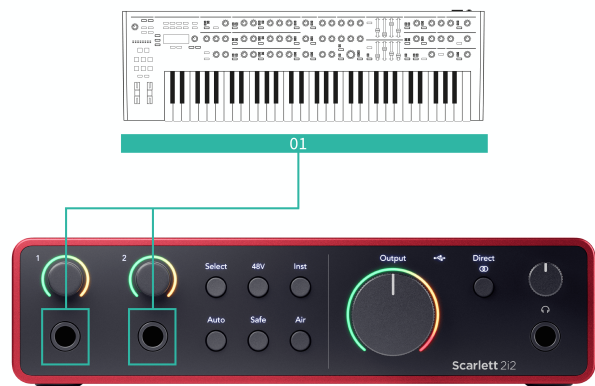
ラインレベル機器を接続する

下の図は、ラインレベル機器を Scarlett 2i2 のライン入力に接続する場合の接続例です。

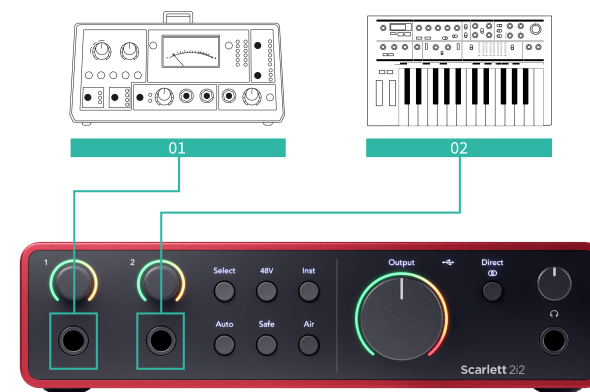
シンセサイザーやキーボード、マイクプリアンプなどのラインレベル機器をフロントパネルの 6.35mm ジャック入力に接続します。

ラインレベル機器の接続には、6.35mm - 6.35mm TRS ケーブルを使用してください。また各入力はモノラル入力であることにご注意ください。Scarlett 2i2 にラインレベル機器を接続する場合は、Inst 機能を無効にしてください。

1. 下の図は、6.35mm TRS ケーブルでステレオシンセサイザーを Scarlett 2i2 の入力 1 および 2 に接続した様子を示しています。



2. 下の図は、Scarlett 2i2 の各入力に 2 つのモノラルソースが接続されている様子です。入力 1 には、マイクレベル信号をラインレベルにブーストするためのマイクプリアンプが接続されています。お使いのプリアンプの出力が XLR (メス) 出力の場合は、XLR (メス) - 6.35mm TRS ジャック変換ケーブルを使用する必要があります。入力 2 には、6.35mm TRS ケーブルを使用してモノラルシンセサイザーが接続されています。



ループバック

ループバック機能を使用すると、コンピュータから出力されたオーディオ信号をインターフェースに接続されているマイクや楽器の信号と共に録音ソフトウェアの別のチャンネルに録音できます。

ループバックを使用するには、DAW ソフトウェアで入力 channels 3-4 を選択します。

ループバックは、コンピュータから出力されたオーディオ出力を「ループバック」し、Scarlett のバーチャル入力チャンネルに送信します。コンピュータから出力されるあらゆるオーディオ信号を DAW (デジタルオーディオワークステーション) に録音可能です。



重要



ループバック使用の際は、フィードバックループの発生を防ぐため、録音ソフトウェアのチャンネルをミュートしてください。

スタンドアロンモード

Scarlett 2i2 は、コンピュータに接続していなくても単独で動作してオーディオ信号を伝送できるスタンドアロンモードを備えます。スタンドアロンモードは、以下の用途などに活用できます：



- 他のインターフェースのプリアンプ数を増やしたい、またはラインレベル入力しか搭載されていないミキサーでプリアンプを使用したい場合。
- コンピュータを起動したり接続したりせずに、スタジオセットアップを使用したい場合 – ギターやその他の電子楽器の音を、コンピュータを使用せずにスピーカーから直接出力できます。

スタンドアロンモードを有効にするには：

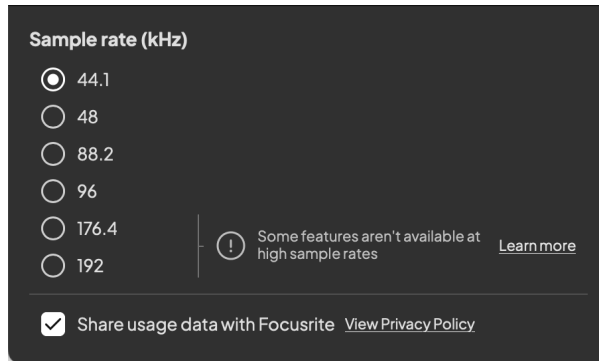
1. Scarlett の電源ソケットに電源ケーブルを接続します。
スマートフォン充電用の USB 電源アダプターなどが使用可能です。
スタンドアロンモードで電源ケーブルを接続する際は、**USB** または **5V DC** のいずれのポートも使用可能です。
2. 通常通りインターフェースに入出力を接続します ([使用例参照](#))
3. ダイレクトモニター機能を有効にして、入力信号を出力 (ヘッドフォンおよびライン出力) にルーティングします。
モノラルソースを使用する場合は Direct 機能がモノラル  に設定されていること、ステレオソースを使用する場合はステレオ  に設定されていることをご確認ください ([ダイレクトモニターボタン \[19\]参照](#)).

Focusrite Control 2

Focusrite Control 2 の設定

Focusrite Control 2 ウィンドウ右上のリーダーアイコン  から、 をクリックすると設定ページが表示されます。

設定ページでは、以下の項目を設定できます：



サンプルレート (kHz)

サンプルレートとは、コンピュータが 1 秒間に録音を行うサンプル数のことです。サンプルレートが高いほど高音質になりますが、それに伴い録音データのサイズが大きくなり、より多くのハードディスク容量が必要となります。

多くの場合、レコーディングには 44.1kHz が十分以上の音質となります。



注記

以下の機能は、クワッドバンド (サンプルレート 176.4kHz および 192kHz) では使用できません。

- Air モード (Harmonic Drive)
- クリップセーフ

分析

このチェックボックスを使用して、利用状況分析を有効にし、改善 Focusrite Control 2 に役立ててください。詳細については、[プライバシーポリシー](#) をご覧ください。

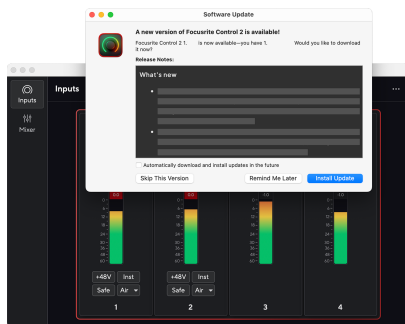
アップデート

Focusrite Control 2 のアップデート

Focusrite では、ユーザーの皆さまが Scarlett 2i2 を最大限に活用いただけるよう、新機能の追加や改善を施す Focusrite Control 2 のアップデートを臨時提供しています。

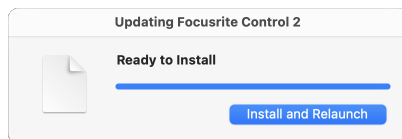
以下の 2 つの方法で、Focusrite Control 2 が最新バージョンであることを確認できます：

1. Focusrite Control 2 内でアップデーターを使用：
 1. Focusrite Control 2 を起動します。
 2. Focusrite Control 2 では、2 通りの方法でアップデートが可能です。
 - a. アップデートが検出されると、ダイアログウィンドウが自動的に表示されます。Install Update をクリックすると、アップデートが開始されます。



- b. お使いの Focusrite Control 2 が最新バージョンであることを確認するには、アプリケーションウィンドウ右上のリーダーアイコンから、Check for updates をクリックします。
3. アップデーターのダウンロードが完了すると表示されるポップアップウィンドウで Install and Relaunch をクリックします。

Focusrite Control 2 のアップデート時、ソフトウェアがリセットされる前に以下のウィンドウが表示されます。



2. Focusrite のダウンロードページから Focusrite Control 2 をダウンロードします：

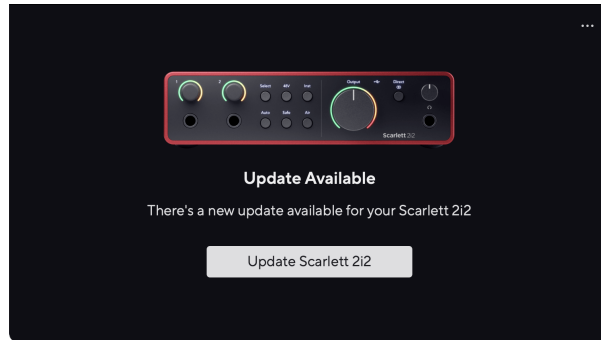
1. フォーカスライトのダウンロードウェブサイトに移動します。
focusrite.com/downloads
2. ダウンロード Web サイトであなた Scarlett を見つけてください。
3. お使いのオペレーティングシステム(Windows または Mac)用にダウンロード Focusrite Control 2 してください。
4. コンピューターのダウンロードフォルダーを開き、Focusrite Control 2 インストーラーをダブルクリックします。
5. 画面の指示に従ってインストール Focusrite Control 2 します。Windows 用にインストール Focusrite Control 2 する場合は、コンピュータが再起動します。
6. まだ接続していない場合は、インターフェイスを USB ケーブルでコンピュータに接続します Scarlett。
7. Focusrite Control 2 を起動すると、Scarlett が自動的に認識されます。

Scarlett のアップデート

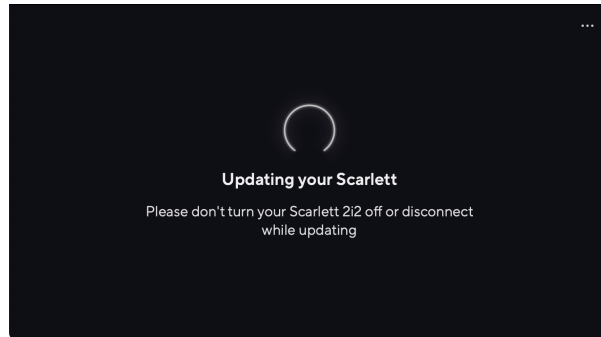
Focusrite は、お客様が Scarlett を最大限に活用いただけるよう、新機能の追加や改善を施す Scarlett 2i2 のアップデートを臨時提供しています。Scarlett 2i2 のファームウェアは、Focusrite Control 2 からアップデート可能です。

Scarlett をアップデートするには：

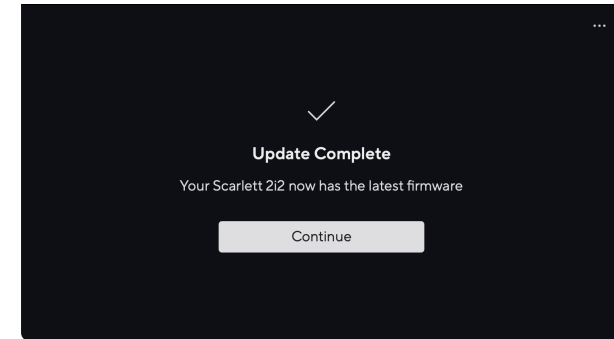
1. Focusrite Control 2 を起動します。
アップデートが利用可能な場合は、Focusrite Control 2 起動時にメッセージが表示されます。



2. Update Scarlett 2i2 をクリックします。
Focusrite Control 2 がアップデートを開始します。アップデート中は Scarlett 2i2 の接続を取り外さないでください。



3. アップデート完了後、Continue をクリックします。



以上で Scarlett 2i2 は最新版にアップデートされ、通常通りご使用いただけます。

仕様

以下の仕様は、お使いの機器が Scarlett 2i2 で使用できるか確認するための参考情報となります。通常 Scarlett 2i2 は、ほとんどの機器で使用可能なため、これらの情報についての知識がなくても問題ございません。

性能仕様

実測値は、可能な限り AES17 に準拠して測定しています。

録音

| | |
|-------------|---|
| 対応サンプリングレート | 44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz |
| ビット深度 | 24 ビット |

マイク入力

| | |
|------------------|----------------------------|
| 周波数特性 | 20Hz ~ 20kHz ± 0.05dB |
| ダイナミックレンジ (A 特性) | 116dB |
| THD+N | -97dB (-1dBFS @ 8dB ゲイン) |
| ノイズ EIN (A 特性) | -127dBu |
| 最大入力レベル (最小ゲイン) | 16dBu |
| ゲインレンジ | 69dB |
| 入力インピーダンス | 3kΩ |

ライン入力

| | |
|------------------|----------------------------|
| 周波数特性 | 20Hz ~ 20kHz ± 0.05dB |
| ダイナミックレンジ (A 特性) | 115.5dB |
| THD+N | -97dB (-1dBFS @ 8dB ゲイン) |
| 最大入力レベル (最小ゲイン) | 22dBu |
| ゲインレンジ | 68dB |
| 入力インピーダンス | 60kΩ |

楽器入力

| | |
|------------------|----------------------------|
| 周波数特性 | 20Hz - 20kHz ± 0.15dB |
| ダイナミックレンジ (A 特性) | 113dB |
| THD+N | -58dB (-1dBFS @ 8dB ゲイン) |
| 最大入力レベル (最小ゲイン) | 12dBu |
| ゲインレンジ | 61dB |
| 入力インピーダンス | 1MΩ |

ライン出力 1 と 2 (バランス)

| | |
|------------------|-----------------------|
| 周波数特性 | 20Hz - 20kHz ± 0.02dB |
| ダイナミックレンジ (A 特性) | 120dB |
| THD+N | -112dB |

ライン出力 1 と 2 (バランス)

| | |
|-----------|-------|
| 最大出力レベル | 16dBu |
| 出力インピーダンス | 100Ω |

ヘッドフォン出力

| | |
|------------------|-----------------------------------|
| 周波数特性 | 20Hz - 20kHz ± 0.1dB @ 33Ω / 300Ω |
| ダイナミックレンジ (A 特性) | 112dB @ 33Ω |
| 最大出力レベル | 116dB @ 300Ω |
| 最大出力電力 | 2.5dBu (33Ω) |
| | 10dBu (300Ω) |
| 最大出力電力 | 32mW (33Ω) |
| | 22mW (300Ω) |
| THD+N | -99dB @ 33Ω (最小) |
| | -108dB @ 300Ω (最小) |
| 出力インピーダンス | 50Ω |

物理的特性と電気的特性


アナログ入力

| | |
|-----------------|--|
| コネクタ | リアパネル Neutrik® XLR コネクタ x 2 |
| | フロントパネル Neutrik® 6.35mm (1/4 インチ) ジャックソケット x 2 |
| マイク/ライン切替 | 自動 フロントパネルの入力に 6.35mm ジャックを接続すると、マイク入力が無効になります。 |
| ファンタム電源 (48V) | フロントパネル 48V (ファンタム電源) ボタンまたはソフトウェア内スイッチ |
| ライン/楽器切替 | フロントパネル Inst ボタンまたはソフトウェア内スイッチ |
| オートゲイン | フロントパネル Auto ボタンまたはソフトウェア内スイッチ |
| クリップセーフ | フロントパネル Safe ボタン |
| 'AIR' 機能 | フロントパネル Inst ボタンまたはソフトウェア内スイッチ |



アナログ出力

| | |
|-----------------|--|
| バランス出力 | リアパネル Neutrik® 6.35mm (1/4 インチ) TRS ジャックソケット x 2 |
| ヘッドフォン出力 | フロントパネルステレオ 6.35mm (1/4 インチ) TRS ジャックソケット |
| メイン出力レベルコントロール | プリフェーダー出力レベルメーターつきフロントパネルアナログコントロールノブ |
| ヘッドフォンレベルコントロール | フロントパネルアナログコントロールノブ |

その他の入出力

| | |
|-----|--|
| USB | データ伝送および電源用 USB 2.0 タイプ C コネクタ x 1  |
| | 900mA |
| | USB タイプ C コネクタ x 1 - 5V DC |
| | 4.5W |

フロントパネルのインジケータ

| | |
|------------|---|
| チャンネル選択 | 白/緑 LED (チャンネル 1 および 2) |
| Select ボタン | 白/緑 Select LED |
| 48V | 白/緑 48V LED (選択チャンネルによる) |
| Inst | 白/緑 Inst LED (選択チャンネルによる) |
| Auto | 白 Auto LED (オートゲインの開始) |
| クリップセーフ | 白/緑 Safe LED (選択チャンネルによる) |
| Air モード | 白/緑 Air LED (選択チャンネルによる) |
| 出力レベルメーター | Output ノブ周囲の 3 色 LED リング |
| USB | 緑 USB  LED |
| ダイレクトモニター | 3 つのステータス表示  LED |

重量および寸法

| | |
|----|---------------------|
| 重量 | 595g (1.31lbs) |
| 高さ | 47.5mm (1.87 インチ) |

重量および寸法

| | |
|----|--------------------|
| 幅 | 180mm (7.09 インチ) |
| 奥行 | 117mm (4.60 インチ) |

動作環境

| | |
|------|-----------------------|
| 動作気温 | 最大動作温度 : 40°C / 104°F |
|------|-----------------------|

チャンネルの順序

入力チャンネル

| 入力 | Channel |
|----|------------------------|
| 1 | 入力 1 (Mic/Line/Inst) |
| 2 | 入力 2 (Mic/Line/Inst) |
| 3 | Loopback 1 |
| 4 | Loopback 2 |

出力チャンネル

| 出力 | Channel |
|----|----------------------|
| 1 | Output L (ヘッドフォン左) |
| 2 | Output R (ヘッドフォン右) |



注記

Outputs 1 および 2 への信号は、ヘッドフォン出力にも送信されます。すべてのライン出力信号が、ヘッドフォン出力からも出力されます。

通知

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関するご質問は、以下の Focusrite ヘルプセンターへアクセスしてください。 support.focusrite.com.

著作権および法定通知

Focusrite は Focusrite Group PLC の登録商標です。Scarlett は Focusrite Group PLC の商標です。

その他すべての商標および商品名はそれらの個別の所有者の財産です。

2023 © Focusrite Audio Engineering Limited. 無断転用禁止。

クレジット

Focusrite は、この製品を提供するために尽力した次の Scarlett 第 4 世代チーム メンバーに感謝の意を表します。

Aarron Beveridge、Adam Watson、Adrian Dyer、Adrien Fauconnet、Alex Middleton-Dalby、Alice Rizzo、Alistair Smith、Andy Normington、Andy Poole、Andy West、Arne Gödeke、Bailey Dayson、Bamber Haworth、Bash Ahmed、Ben Bates、Ben Cochrane、Ben Dandy、Benjamin Dunn、Bran Searle、Callum Denton、Carey Chen、Cerys Williams、Chris Graves、Dan Clarke、Dan Stephens、Dan Weston、Daniel Hughley、Daniel Johnson、Danny Nugent、Dave Curtis、David Marston、Derek Orr、Ed Fry、Ed Reason、Eddie Judd、Ellen Dawes、Emma Davies、Flavia Ferreira、Greg Westall、Greg Zielinski、Hannah Williams、Harry Morley、Ian Hadaway、Isaac Harding、Jack Cole、Jake Wignall、James Hallowell、James Otter、Jason Cheung、Jed Fulwell、Jerome Noel、Jesse Mancina、Joe Crook、Joe Deller、Josh Wilkinson、Joe Munday、Joe Noel、Jon Jannaway、Julia Laeger、Kai Van Dongen、Keith Burton、Kiara Holm、Kieran Rigby、Krischa Tobias、Lars Henning、Laurence Clarke、Loz Jackson、Luke Piotrak、Luke Mason、Marc Smith、Mark Greenwood、Martin Dewhirst、Martin Haynes、Mary Browning、Massimo Bottaro、Matt Morton、Matt Richardson、Max Bailey、Michalis Fragkiadakis、Mick Gilbert、Mike Richardson、Nicholas Howlett、Nick Lyon、Nick Thomson、Oliver Tapley、Olly Stephenson、Paul Chana、Paul Shufflebotham、Pete Carss、Pierre Ruiz、Richard Carvalho、Richard Walters、Robert Blaauboer、Robert Mitsakov、Ross Chisholm、Sam Lewis、Samuel Price、Sandor Zsuga、Sebastian Heinz、Simon Burges、Stefan Archer、Stefan Elmes、Steve Bush、Stratis Sofianos、Taavi Bonny、Taren Gopinathan、Tom Carter、Tom Haines、Tony Pow、Valeria Cirillo、Will Houlton、Will Munn、Vidur Dahiya、Wade Dawson、Zih-Syuan Yang

著者はエド・フライ。